

平成 29 年 度

# 一 般 入 試 選 拔 要 項

京 都 大 学

# ◇ 目 次

※特色入試については別途公表している「特色入試学生募集要項」をご覧ください。

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| 京都大学の基本理念・京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）・・・     | 1  |
| Ⅰ 入学定員・募集方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2  |
| Ⅱ 出願資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・       | 4  |
| Ⅲ 入学者選抜方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 6  |
| Ⅳ 個別学力検査等実施期日・時間，実施場所・・・・・・・・・・・・・・・・        | 7  |
| Ⅴ 入学者選抜の実施教科・科目等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・     | 8  |
| Ⅵ 京都大学の学力検査の出題方針について・・・・・・・・・・・・・・・・         | 10 |
| Ⅶ 外国学校出身者のための選考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・      | 36 |
| Ⅷ 工学部地球工学科国際コースについて・・・・・・・・・・・・・・・・          | 38 |
| Ⅸ 特色入試について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 39 |
| X 障害等のある入学志願者との事前相談について・・・・・・・・              | 40 |
| 参考 学部・学科紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・   | 41 |
| 予告 平成30年度一般入試選抜方法等の変更について・・・・・・・・            | 66 |
| 京都大学構内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・      | 67 |
| インターネット出願の導入について・・・・・・・・・・・・・・・・             | 68 |
| 大学案内等の請求方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・           | 68 |

# ◇ 学部・学科に関する問い合わせ先

| 学 部        | 担当掛   | 電話番号         | 住 所                       |
|------------|-------|--------------|---------------------------|
| 総合人間学部     | 教務掛   | 075-753-7875 | 〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町    |
| 文学部        | 第一教務掛 | 075-753-2709 | 〒606-8501 京都市左京区吉田本町      |
| 教育学部       | 教務掛   | 075-753-3010 |                           |
| 法学部        | 教務掛   | 075-753-3107 |                           |
| 経済学部       | 教務掛   | 075-753-3406 |                           |
| 理学部        | 学部教務掛 | 075-753-3637 | 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町    |
| 医学部医学科     | 学部教務掛 | 075-753-4325 | 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町     |
| 医学部人間健康科学科 | 教務掛   | 075-751-3906 | 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 |
| 薬学部        | 教務掛   | 075-753-4514 | 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町    |
| 工学部        | 教務掛   | 075-753-5039 | 〒606-8501 京都市左京区吉田本町      |
| 農学部        | 学部教務掛 | 075-753-6012 | 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町    |

# ◇ 入学試験に関する問い合わせ先

| 担当部課            | 電話番号         | 住 所                  | URL                                                             |
|-----------------|--------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 教育推進・学生支援部入試企画課 | 075-753-2521 | 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 | <a href="http://www.kyoto-u.ac.jp">http://www.kyoto-u.ac.jp</a> |

## —京都大学の基本理念—

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、基本理念が定められ、教育の基本理念として以下のとおり定めています。

- 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
- 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

## —京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）—

### 【学士課程】

京都大学は、日本の文化、学術が育まれてきた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探究し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切にする研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

1. 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
2. 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
3. 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

京都大学は、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところにしたがい、入学者選抜における教科・科目等を定めており、望ましい基礎的な学力を備え、京都大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を、国内外から広く受け入れます。

I 入学定員・募集方法等

1. 入学定員・募集人員

特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

| 学部・学科     |               | 募集人員<br>入学定員 | 募集区分                             |                           |                                                                                                                            |
|-----------|---------------|--------------|----------------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |               |              | 前期日程                             | 後期日程                      | その他の選抜方法                                                                                                                   |
| 総合人間学部    |               | 120          | 文系 62                            |                           | 特色入試：5人                                                                                                                    |
|           |               |              | 理系 53                            |                           |                                                                                                                            |
| 文学部       |               | 220          | 210                              |                           | 特色入試：10人                                                                                                                   |
| 教育学部      |               | 60           | 文系 44                            |                           | 特色入試：6人                                                                                                                    |
|           |               |              | 理系 10                            |                           |                                                                                                                            |
| 法学部       |               | 330          | 310<br>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)    | 20<br>(後期日程の募集は特色入試として行う) | 外国学校出身者のための選考：10人以内                                                                                                        |
| 経済学部      |               | 240          | 文系 190<br>(外国学校出身者のための選考10人以内含む) |                           | 特色入試：25人<br>外国学校出身者のための選考：10人以内                                                                                            |
|           |               |              | 理系 25                            |                           |                                                                                                                            |
| 理学部       |               | 311          | 306                              |                           | 特色入試：5人                                                                                                                    |
| 医学部       | 医学科           | 107          | 102                              |                           | 特色入試：5人                                                                                                                    |
|           | 人間健康科学科<br>※1 | 100          | 70                               |                           | 【先端看護科学コース】 特色入試：20人<br>【先端リハビリテーション科学コース<br>(理学療法学講座)】 特色入試：5人<br>【先端リハビリテーション科学コース<br>(作業療法学講座)】 特色入試：5人                 |
|           | 計             | 207          | 172                              |                           |                                                                                                                            |
| 薬学部<br>※2 | 薬科学科          | 50           | 47                               |                           | 【薬科学科】 特色入試：3人                                                                                                             |
|           | 薬学科           | 30           | 30                               |                           |                                                                                                                            |
|           | 計             | 80           | 77                               |                           |                                                                                                                            |
| 工学部       | 地球工学科         | 955          | 937<br>(別表1のとおり)                 |                           | 【地球工学科】 特色入試：3人<br>国際コースのための選考：30人以内<br>【電気電子工学科】 特色入試：5人<br>【情報学科】 特色入試：3人<br>【工業化学科】 特色入試：7人                             |
|           | 建築学科          |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 物理工学科         |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 電気電子工学科       |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 情報学科          |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
| 農学部       | 工業化学科         | 300          | 282<br>(別表2のとおり)                 |                           | 【資源生物科学科】 特色入試：3人<br>【応用生命科学科】 特色入試：3人<br>【地域環境工学科】 特色入試：3人<br>【食料・環境経済学科】 特色入試：3人<br>【森林科学科】 特色入試：3人<br>【食品生物科学科】 特色入試：3人 |
|           | 資源生物科学科       |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 応用生命科学科       |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 地域環境工学科       |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
|           | 食料・環境経済学科     |              |                                  |                           |                                                                                                                            |
| 合計        |               | 2823         | 2,678                            | 20                        |                                                                                                                            |

※1 京都大学では平成29年4月に、医学部人間健康科学科の組織再編を予定しております。これらの計画は、文部科学省の審査結果によって確定するものであり、変更があり得ます。  
なお、確定次第、改めて入学定員・募集人員の変更について本学ホームページにより公表しますので必ずご確認ください。

※2 薬科学科は4年制、薬学科は6年制です。

なお、工学部と農学部は、入学定員を学部として定め、別表1と別表2のとおり、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。

| 別表1 | 学部・学科等  |                             | 受入学生数（目安） |
|-----|---------|-----------------------------|-----------|
| 工学部 | 地球工学科   | 182<br>(国際コースのための選考30人以内含む) |           |
|     | 建築学科    | 80                          |           |
|     | 物理工学科   | 235                         |           |
|     | 電気電子工学科 | 125                         |           |
|     | 情報学科    | 87                          |           |
|     | 工業化学科   | 228                         |           |

工学部は学科を第2志望まで選択することができます。

| 別表2 | 学部・学科等    |    | 受入学生数（目安） |
|-----|-----------|----|-----------|
| 農学部 | 資源生物科学科   | 91 |           |
|     | 応用生命科学科   | 44 |           |
|     | 地域環境工学科   | 34 |           |
|     | 食料・環境経済学科 | 29 |           |
|     | 森林科学科     | 54 |           |
|     | 食品生物科学科   | 30 |           |

農学部は学科を第6志望まで選択することができます。

## 2. 試験実施方式・日程

本学は、分離分割方式による前期・後期日程試験を実施します。

志願者は、分離分割方式の「前期日程」の大学・学部等から1つ、「後期日程」の大学・学部等から1つの合計2つの大学・学部等に出願することができます。

| 日程            | 学生募集要項<br>発表 | 出願期間                 | 第1段階選抜<br>合格者発表(※) | 試験実施日                                                  | 合格発表日    |
|---------------|--------------|----------------------|--------------------|--------------------------------------------------------|----------|
| 前期            | 12月中旬        | 1月23日(月)<br>～2月1日(水) | 2月8日(水)            | 2月25日(土)<br>26日(日)<br>27日(月)<br>※27日は医学部医学科<br>の面接のみ実施 | 3月10日(金) |
| 後期<br>(法学部のみ) | 7月中旬         | 1月23日(月)<br>～2月1日(水) | 2月28日(火)           | 3月13日(月)                                               | 3月23日(木) |

(※)法学部後期日程(特色入試)については第1次選考合格者発表とする。

## 3. 募集方法等

- (1) 総合人間学部，教育学部，経済学部は，募集人員を「文系」試験及び「理系」試験に分けて募集します。
- (2) 法学部は入学定員を「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集します。
- (3) 医学部，薬学部は，学科別に募集します。
- (4) 工学部は，学部として募集しますが，受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。  
なお，第1～第2志望まで学科を選択することができます。
- (5) 農学部は，学部として募集しますが，受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。  
なお，第1～第6志望まで学科を選択することができます。

## II 出願資格

次のいずれかに該当する者で、平成 29 年度大学入試センター試験において受験を課す教科・科目(14～35 ページに記載した各学部「大学入試センター試験の利用教科・科目名」欄参照)のすべてを受験した者

1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成 29 年 3 月卒業見込みの者
2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 29 年 3 月修了見込みの者
3. 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
6. 文部科学大臣の指定した者(昭和 23 年文部省告示第 47 号「大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定」)
7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定(大検)に合格した者及び平成 29 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、平成 29 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 29 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの  
→下記【個別入学資格審査の申請方法等】参照

### 【個別入学資格審査の申請方法等】

出願資格 8. により出願を希望する者は、事前に個別の入学資格審査を申請してください。審査の結果、資格を認定された場合のみ出願が認められます。

なお、出願資格 1.～7.により出願を希望する者は、入学資格審査を申請する必要はありません。

#### 1. 入学資格認定の申請対象者

出願資格 8. として申請可能な者は、学校教育法施行規則第 150 条第 7 号に該当する者で、外国人を対象に教育を行うことを目的にして我が国に設置された教育施設において高等学校に対応する 3 年に相当する学習歴を有する又は有する見込みのものです。

#### 2. 申請書類

- ① 入学資格認定申請書(本学所定の様式)
- ② 出身教育施設の修了(又は修了見込み)証明書
- ③ 出身教育施設の規則等
- ④ 出身教育施設のカリキュラム(修業年限、授業時間数、授業科目、必要単位数等が明記されたもの)
- ⑤ 返信用封筒〔長形 3 号封筒に申請者の住所・氏名を明記して、792 円分(書留速達料金)の切手貼付〕

#### 3. 申請受理期間

- (1) 平成 28 年 7 月 22 日(金)～ 9 月 2 日(金)
- (2) 平成 29 年 1 月 16 日(月)～ 1 月 18 日(水)(平成 29 年度大学入試センター試験を受験した者に限る。)  
上記期間内に「書留速達郵便」にて、「入学資格認定申請書類在中」と朱書し、郵送(期限内必着)してください。なお、提出された書類は一切返却しません。

#### 4. 審査方法

申請者から提出された入学資格認定申請書及び出身教育施設の修了(又は修了見込み)証明書等に基づき審査します。

## 5. 認定基準

認定の基準は、専修学校高等課程の修了者に入学資格を認める基準を準用し、各教科の修得単位数等について、原則として次に掲げる条件を満たした教育を行う施設で当該教育を修了していること、又は修了する見込みであること。

- (1) 修了に必要な総単位時間数は、2,590 単位時間以上とする。
- (2) 修了に必要な普通教科の総単位時間数は、420 単位時間以上とする。普通教科は国語（日本語）、地理歴史、公民、数学、理科、外国語とする。
- (3) 前項の教科以外の履修が、前項の教科と同様の成果が期待できる場合においては、その教科の履修をもって、前項の教科の一部又は全部に替えることができる。

※ 単位については、1 単位時間を 50 分とする。

## 6. 認定について

審査の結果、入学資格認定者には認定書を交付します。認定書を一度交付された場合、再度申請する必要はありません。

## 7. 提出先・照会先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課 TEL 075-753-2521

※ 申請予定者は申請前に必ず連絡してください。

### ・東日本大震災により被災した入学志望者に係る検定料の免除について

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。詳しくは、入試企画課（TEL 075-753-2521）へお問い合わせください。

### ・熊本地震により被災した入学志望者に係る検定料の免除について

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。詳しくは、入試企画課（TEL 075-753-2521）へお問い合わせください。

### Ⅲ 入学者選抜方法等

1. 入学者選抜は、大学入試センター試験の成績、一般入試個別学力検査（以下、「個別学力検査」と省略）等の成績及び調査書を資料とし、各学部判断基準により総合して判定します。  
学力検査等の成績判定は、大学入試センター試験の成績を14～35ページに記載した「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄の配点に換算したうえ、これと個別学力検査等の成績とを総合して行います。  
なお、大学入試センター試験の成績の複数年度利用は行いません。
2. 定員に対する倍率、大学入試センター試験の得点により第1段階選抜（※）を行うことがあります。  
その場合、各学部において下記により、第1段階選抜合格者を決定し、個別学力検査等を行います。  
（※）法学部後期日程（特色入試）については第1次選考とする。
3. 社会人入試、専門高校・総合学科卒業生入試は行いません。

| 学部名等       |            | 選抜方法等 | 個 別 学 力 検 査 等  |          |          |    |    |                           |                    | 外国学校<br>出身者の<br>ための<br>特別選考 | その他<br>の選抜 |     |
|------------|------------|-------|----------------|----------|----------|----|----|---------------------------|--------------------|-----------------------------|------------|-----|
|            |            |       | 個別<br>学力<br>検査 | 実技検査等    |          |    |    |                           | 第1段階選抜※1           |                             |            |     |
|            |            |       |                | 実技<br>検査 | 論述<br>試験 | 面接 | 論文 | 英語に<br>おける<br>聞き取<br>りテスト | 募集人員に<br>対する<br>倍率 |                             |            | その他 |
| 総合人間<br>学部 | 文 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ×                           | ×          |     |
|            | 理 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  |                             |            |     |
| 文学部        |            | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ×                           | ×          |     |
| 教育学部       | 文 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ×                           | ×          |     |
|            | 理 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  |                             |            |     |
| 法学部        | 前期日程       | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ○※2                         | ×          |     |
|            | 後期日程(特色入試) | ×     | ×              | ×        | ×        | ○  | ×  | 約15.0倍                    | ×                  |                             |            |     |
| 経済学部       | 文 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ○※2                         | ×          |     |
|            | 理 系        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  |                             |            |     |
| 理学部        |            | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | ×                         | ○※3                | ×                           | ×          |     |
| 医学部        | 医学科        | ○     | ×              | ×        | ○        | ×  | ×  | ○※4                       |                    | ×                           | ×          |     |
|            | 人間健康科学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 学科募集人員<br>の約3.5倍          | ×                  |                             |            |     |
| 薬学部        | 薬科学科       | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  | ×                           | ×          |     |
|            | 薬学科        | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 約3.5倍                     | ×                  |                             |            |     |
| 工学部        | 地球工学科      | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 学部募集人員<br>の約3.0倍          | ×                  | ×                           | ○※5        |     |
|            | 建築学科       | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 物理工学科      | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 電気電子工学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 情報学科       | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 工業化学科      | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
| 農学部        | 資源生物科学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  | 学部募集人員<br>の約3.5倍          | ×                  | ×                           | ×          |     |
|            | 応用生命科学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 地域環境工学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 食料・環境経済学科  | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 森林科学科      | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |
|            | 食品生物科学科    | ○     | ×              | ×        | ×        | ×  | ×  |                           | ×                  |                             |            |     |

- ※1 法学部後期日程（特色入試）については第1次選考とする
- ※2 外国学校出身者の特別選考については36、37ページ参照のこと
- ※3 大学入試センター試験の5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者
- ※4 大学入試センター試験の5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍までの者
- ※5 工学部地球工学科は、外国人留学生を対象とした国際コースのための特別選考を別途行う（特別選考については38ページ参照のこと）



## Ⅳ 個別学力検査等実施期日・時間、実施場所

### 1. 個別学力検査等実施期日・時間

| 日程等<br>学 部  |               | 2月25日(土) |                      |     |                       | 2月26日(日)      |                      |              |                       | 2月27日(月) |                      | 3月13日(月) |                       |
|-------------|---------------|----------|----------------------|-----|-----------------------|---------------|----------------------|--------------|-----------------------|----------|----------------------|----------|-----------------------|
|             |               | 教科等      | 時間                   | 教科等 | 時間                    | 教科等           | 時間                   | 教科等          | 時間                    | 教科等      | 時間                   | 教科等      | 時間                    |
| 総合人間<br>学 部 | 文系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>15時30分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 地理歴史         | 13時30分<br>～<br>15時00分 |          |                      |          |                       |
|             | 理系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |
| 文 学 部       |               | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>15時30分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 地理歴史         | 13時30分<br>～<br>15時00分 |          |                      |          |                       |
| 教育学部        | 文系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>15時30分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 地理歴史         | 13時30分<br>～<br>15時00分 |          |                      |          |                       |
|             | 理系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科<br>(1科目) | 15時00分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |
| 法学部         | 前期            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>15時30分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 地理歴史         | 13時30分<br>～<br>15時00分 |          |                      |          |                       |
|             | 後期            |          |                      |     |                       |               |                      |              |                       |          |                      | 小論文      | 14時00分<br>～<br>16時30分 |
| 経済学部        | 文系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>15時30分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 地理歴史         | 13時30分<br>～<br>15時00分 |          |                      |          |                       |
|             | 理系            | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 |              |                       |          |                      |          |                       |
| 理 学 部       |               | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語<br>(英語のみ) | 9時30分<br>～<br>11時30分 |              |                       |          |                      |          |                       |
| 医<br>学<br>部 | 医 学 科         | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 | 面 接      | 9時00分<br>～<br>17時30分 |          |                       |
|             | 人間健康<br>科 学 科 | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語<br>(英語のみ) | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |
| 薬 学 部       |               | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語<br>(英語のみ) | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |
| 工 学 部       |               | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語<br>(英語のみ) | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |
| 農 学 部       |               | 国 語      | 9時30分<br>～<br>11時00分 | 数 学 | 13時30分<br>～<br>16時00分 | 外国語           | 9時30分<br>～<br>11時30分 | 理 科          | 13時30分<br>～<br>16時30分 |          |                      |          |                       |

### 2. 個別学力検査等実施場所

全学部吉田キャンパス（京都市左京区）で実施する予定です。

ただし、志願者数によりそれ以外の場所で実施することもあります。

個別学力検査等の実施場所、経路等の詳細は、受験票発送時にお知らせします。

## V 入学者選抜の実施教科・科目等

### 1. 平成28年度入試からの変更点について

主な変更点は以下のとおりです。詳細は各学部のパージで確認してください。

#### ①医学部人間健康科学科の変更

専攻別の選抜を廃止し、学科にて一括して選抜します。

大学入試センター試験及び個別学力検査の配点を変更します。

大学入試センター試験の利用教科・科目「理科」について以下のとおり変更します。

【平成28年度入試】

「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2科目を選択する。



【平成29年度入試】

「物理」, 「化学」, 「生物」から2科目を選択する。

個別学力検査における「外国語」の出題教科・科目について以下のとおり変更します。

【平成28年度入試】

「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」から1科目を選択する。

※検査技術科学専攻は「英語」のみ。



【平成29年度入試】

「英語」のみとする。

#### ②薬学部の変更

個別学力検査における「外国語」の出題教科・科目について以下のとおり変更します。

【平成28年度入試】

「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」から1科目を選択する。



【平成29年度入試】

「英語」のみとする。

## 2. 教科・科目名の略称について

大学入試センター試験及び個別学力検査の教科・科目名は、以下のように略しています。

国語→国，

地理歴史→地歴，世界史B→世B，日本史B→日B，「倫理，政治・経済」→「倫，政経」，

数学→数，数学Ⅰ→数Ⅰ，数学Ⅱ→数Ⅱ，数学Ⅲ→数Ⅲ，数学A→数A，数学B→数B，

理科→理，物理基礎→物基，化学基礎→化基，生物基礎→生基，地学基礎→地基，

外国語→外，英語→英，ドイツ語→独，フランス語→仏，中国語→中，韓国語→韓

### 【注意】大学入試センター試験の成績利用の方法について

大学入試センター試験の「地理歴史・公民」及び「理科」について1科目が課されている場合，2科目受験者については，第1解答科目の成績を用います。

第1解答科目が学部指定した利用教科・科目でない場合は，出願資格を無資格としますので，注意してください。

## Ⅵ 京都大学の学力検査の出題方針について

京都大学が入学者を選抜するため実施する個別学力検査の出題教科・科目は、高等学校学習指導要領による教育課程にしたがって学ぶ教科と科目に対応しています。出題教科・科目における出題範囲と学習指導要領上の教科・科目の関係は次の表のとおりです。

| 出題教科・科目 | 学習指導要領上の教科・科目                                      |
|---------|----------------------------------------------------|
| 国語      |                                                    |
| 文系、理系   | 国語総合、現代文B、古典B                                      |
| 地理歴史    |                                                    |
| 日本史     | 日本史B                                               |
| 世界史     | 世界史B                                               |
| 地理      | 地理B                                                |
| 数学      |                                                    |
| 文系      | 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B                                    |
| 理系      | 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B                                |
| 理科      |                                                    |
| 物理      | 物理基礎 物理                                            |
| 化学      | 化学基礎 化学                                            |
| 生物      | 生物基礎 生物                                            |
| 地学      | 地学基礎 地学                                            |
| 外国語     |                                                    |
| 英語      | コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ |
| ドイツ語    |                                                    |
| フランス語   |                                                    |
| 中国語     |                                                    |

京都大学の学部(医学部の場合、学科)は、それぞれの入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づいて学力検査の内容を定めています。京都大学が実施する学力検査は、知識の活用から思考力と表現力まで、受験者に備わった学習能力を評価します。

この「出題方針」は、高等学校段階までにどのような学習能力と学習態度を培うことを求めているのか、また、そうした能力と態度をどのような基準により評価しようとしているのかを示すものです。

高等学校の教育課程は、国語、地理歴史、数学、理科、外国語だけからなるものではありません。京都大学が入学志願者に求めている学習能力は、高等学校の教育課程全般を通

じて培われてくるものです。

こうして出題方針を示すことが、京都大学の入学志願者が受ける学力検査を理解するために役立つことを期待しています。

### Ⅰ. 国語の出題方針

日本語の文章の論理や論旨、あるいは作者の心情や表現の意図を、的確に理解し、自らの言葉で論理的にその理解を表現できることを評価します。そのため、文章のジャンルとして論説文、随筆、小説など、さらに文体についても明治擬古文まで含め、幅広く問題文を選び、漢字の書き取りや、文章表現の持つ意味、あるいは論理展開の説明をはじめとして、登場人物の言動に託された著者の意図、さらには問題文全体の論旨を問うなど、論述の形式で問題を課します。

古典文法についての正確な理解を持つとともに、古典の修辞などの基礎知識をもち、的確に古文及び漢文の文章を理解できると同時に、原文を現代語訳できることを評価します。そのため、物語や歴史、随筆、日記をはじめとして、ジャンルや時代を限らず、幅広く問題文を選び、語句や修辞の説明、文章の現代語訳、さらに登場人物の言動の理解から問題文全体の論旨に至るまで、さまざまな形式で論述問題を課します。

「国語」は、国語(文系)と国語(理系)と区分をして出題します。この二つの間で、学習指導要領の国語科の科目からみて出題の範囲に変わりはありませんが、出題される問題が異なることがあります。

### Ⅱ. 地理歴史の出題方針

#### 日本史

「日本史」では、原始・古代から現代まで各時代の政治・社会・文化の特色を、個別の事象や知識を相互に関係づけてとらえ、さらに前後の時代や世界史との関係において考える分析力と俯瞰力が求められます。また、教科書をはじめとした歴史叙述は、遺跡・遺物や文書・記録などさまざまな歴史資料の研究成果に基づいていますが、こうした歴史資料に親しみ、それらを自ら読み解いていく意欲と能力が求められます。なお、「日本」という領域は歴史的に形成されてきたものですが、各時代の周辺諸地域との交流や国際的

な諸関係の中に位置づけて理解できることも必要だと考えています。

「日本史」の出題では、以上のような観点から、教科書から得られる基礎的な知識を活用しながら、広い視野での総合的な理解力を問う問題や、事象の正確な把握をふまえ、道筋を立てて説明する能力を問う問題を、出題しています。

### 世界史

「世界史」では、個々の地域世界の成立と発展、地域世界間の交流、近代以降の時代における諸地域世界の結合と変容、そして今日の地球世界の到来という世界史の潮流を、幅広い視野から総合的に把握し、考察する能力が求められます。

「世界史」の出題では、狭義の一国史よりも地域社会を単位として重視しつつ、政治・社会・文化の様々な側面について、個々の地域世界の内部の展開および地域世界間の相互関係を適切に把握しているかを問うことに重点を置いています。このような観点から、教科書に記載されている個々の歴史的事象をその背景とともに理解しているかを問う問題や、様々な歴史的事象を一貫した論理の下に相互に関連づけて歴史的潮流を説明する能力を問う問題を、出題しています。

### 地理

「地理」では、現代世界の地理的事象を、自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教などの側面から理解する系統地理的能力、ならびに、諸地域における個別の事象や諸事象間の結びつきから理解する地誌的能力を有するとともに、今日の諸課題に関する地球的視野からの広い理解力が求められます。

「地理」の出題では、基礎的な学力を踏まえた、広い理解力や論理的な思考力を問うことに重点を置いています。このような観点から、地図(地形図を含む)、写真、統計などの資料を使って、世界の地理的諸事情を系統地理的あるいは地誌的視角から総合的に把握しているかを問う問題や、こうした事象の形成要因やその時間的変化を的確に説明する能力を問う問題を、出題しています。

### Ⅲ. 数学の出題方針

我が国の高等学校と中学校では、身近な現象や事象を「数学」の視点から捉えて数学の問題を作り出すこと、また数学に現れる様々な事項を理解して論理的に考察したり処理したりすること、さらには得られた数学的な知識を利用して身近な現象・事象の理解を深めたり問題解決に役立てることの全般を「数学的活動」と呼んでいます。このような数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めること、事象や現象を数学的に表現する能力を高めること、さらには学習を通して創造性の基礎を涵養するとともに数学の良さを認識し、数学的な知識を論理的根拠に基づいて積極的に活用して判断しようとする態度を育てることが高等学校における数学学習の目標であると、学習指導要領は定めています。本学の学力検査における数学は、高等学校卒業までに学習する数学について、入学志願者がこの学習目標をどの程度達成しているかを評価し判断するものです。

数学の学力とは、単に計算力や論理力だけを指すものではなく、数学的な直観力や、式や数学の概念を利用した表現力なども含まれるものと考えています。したがって、我が国の小学校入学から高等学校卒業までに学習する数学的な概念、原理、法則、公式などの事項のすべてについて、個々の知識の有無だけを単に評価するのではなく、上述のような総合的な数学力を評価する問題を出題するように心掛けています。このため、個別学力検査では、数学的な表現力を評価するため、論述形式の解答となるような出題を主体にします。

具体的には、計算問題であっても、単に計算結果だけではなく、その過程や背後の論理性を評価するような出題を心掛けています。また、論理を問う問題では直観、類推、帰納、演繹等の数学的考察を正確な数学的表現力で記述する能力を評価できるような出題を心掛けています。数学の問題ではいわゆる「正解」に至ることは大切ですが、「正解に至る論理的に正しい過程」も正解と同様に大切です。

高等学校卒業までに学習する概念、原理、法則、公式といった数学的な知識や事項の記

述は、現状では教科書によってその扱いや書き方が多少異なっていますが、本学の数学において出題範囲としている内容について、いずれかの検定済教科書で記述されている事項はすべて出題範囲に含まれていると考えています。現状の数学の高等学校用検定済教科書の内容は、高等学校学習指導要領を踏まえてそこに定められる事項をすべて含みつつ、高等学校卒業までに培われる「数学的活動」の能力によって修得できる程度の事項について幅広く記述されています。したがって、個別学力検査における出題に際しても、高等学校学習指導要領を十分に踏まえた上で、いずれかの検定済教科書で記述されている程度の、高等学校卒業までに得られる論理力から理解できる程度の幅広い事項は出題対象であると考えています。問題作成にあたっては、単発的な個別の数学的知識を問う問題や、解法の暗記によって対処できるような問題を排するように心掛けています。さらに、出題範囲に含まれている複数単元でそれぞれに学習する数学的な知識を論理的・系統的に理解することによって問題解決に到達するいわゆる「融合問題」の出題を通して、数学的な知識の活用力も評価します。

数学（理系）では、出題の範囲に数学Ⅲが含まれます。数学（文系）と数学（理系）の間では出題される問題が異なることがありますが、出題の方針に変わりはありません。

#### Ⅳ. 理科の出題方針

##### 物理

高等学校で学ぶ物理では、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、体系化された知識に基づいて自然の事物・現象を分析的かつ総合的に考察する能力を身に付けることを目標としています。物理学の基礎知識や考え方は、「力と運動」、「エネルギー」、「電気と磁気」、「波」、「熱と温度」、「分子や原子」といった様々な概念や原理・法則を系統的に理解するために必須のものであり、十分な修得が求められます。

個別学力検査「物理」においては、物理学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。出題の形式においては、知識の確認、物理的思考、

計算力を総合的に判断できるように問題を配置します。さらに、思考の過程と論証力を測る目的の記述式問題も出題します。そして、知識の羅列のみでなく、物理的思考、論証力、計算力を総合的に評価します。

##### 化学

高等学校で学ぶ化学では、原子・分子と化学結合の概念を正しく捉えた上で、物質の性質や物質の変化に関する基本的な原理・法則の理解を深めることを目標としています。また、それらの原理・法則をただ記憶するのではなく、観察・実験を通して物質の具体的な性質や反応と結び付けて理解し、それらを活用する能力を身に付けることを目指しています。すなわち、無機物質、有機化合物、高分子化合物などの個々の性質や反応についての知識を単に蓄積するのではなく、それらに基づいて論理的に思考できることが重要です。

個別学力検査「化学」では、化学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。出題にあたっては、物質に関する基本的な知識が身についているかを問い、化学の基本となる概念や原理・法則を活用する能力を試します。さらに、反応式、構造式を適切に表記し、定性的あるいは定量的な考察を論理的に記述できるかも問います。

##### 生物

高等学校で学ぶ生物では、生物や生物現象への関心を高め、目的をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解することを目標としています。遺伝子から生態系にいたる様々な生物学的事象についての基礎知識は、現代社会が直面する医療、生命倫理、食糧生産、環境保全、生物多様性保全といった重要な課題に対応する上で必須のものであり、十分な修得が求められます。

個別学力検査「生物」においては、生物学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。さらに、

修得した知識に基づいて、生物や生物現象に関する観察や実験の結果を適切に解釈し結論を導く能力を重視し、それを評価するために、記述・論述問題を取り入れます。

#### 地学

高等学校で学ぶ地学では、日常生活や社会との関連を図りながら、地球と地球を取り巻く環境、および宇宙への関心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育成するとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を養うことを目標としています。

個別学力検査「地学」では、地学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。また、個別的な知識を問うだけでなく、地学的な基礎知識を活用して地学的現象を科学的に理解し、総合的かつ論理的に説明し、記述する能力を評価できるような問題を出題します。

#### V. 外国語の出題方針

外国語については、英語、ドイツ語、フランス語、中国語を出題します。

入学志願者には、外国語で書かれた情報を正確に理解するだけでなく、自らの主張や意見を、外国語を使って発信する能力を培うことを求めます。学力検査では、出題する個々の言語についての基礎的な学力とその応用力を評価の対象とします。以下、英語を例として出題の方針を説明します。

個別学力検査「英語」では、ただ単に英語を話すだけではなく、英語で書かれた論文や学術的な内容の記事を正しく理解し、その内容を的確にまとめ、それに対する自己の見解を効果的に表現するという、高い英語コミュニケーション能力を身につける上での基礎的な学力とその応用力を問います。この高い英語コミュニケーション能力は、しっかりした語彙力や慣用表現の知識、構文や文法の理解などを基盤としてようやく実現されるものです。

このような基礎的な学力とその応用力を問うために、まとまった内容の英文和訳や和文英訳を求める問題を多用します。語彙知識

を問うことに加えて、文法事項のうちでも特に論理的な思考と表現に欠かせない関係代名詞や関係副詞、仮定法、分詞構文などの理解力や、代名詞の指示対象の的確な理解力を問います。未学習の語句の意味を前後の文脈から正しく推測して、文章全体の主旨を速やかに把握する能力も問います。このような出題を通して、単なる訳出ではなく、包括的な英語の理解力と表現力を重視して評価します。

**【総合人間学部】**

◇募集人員 115 人（前期日程：文系 62 人・理系 53 人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 学力検査等の区分 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名   |                     | 個別学力検査等       |       |        | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |        |     |     |     |     |                   |      | その他の選抜方法等    |     |
|----------|-----------------------|---------------------|---------------|-------|--------|------------------------|--------|-----|-----|-----|-----|-------------------|------|--------------|-----|
|          | 教科                    | 科目名等                | 教科            | 科目名等  | 第1段階選抜 | 試験の区分                  | 国語     | 地歴  | 公民  | 数学  | 理科  | 外国語               | 配点合計 |              |     |
| 文系       | 国語                    | 国語                  | 国語総合・現代文B・古典B | 約3.5倍 |        | センター試験                 | *      | 50  |     | *   | 100 | *                 | 150  | 特色入試<br>追加合格 |     |
|          | 地歴                    | 世B, 日B, 地理B,        | 地歴            |       |        | 世B, 日B, 地理B から1        | 個別学力検査 | 150 | 100 |     | 200 |                   | 200  |              | 650 |
|          | 公民                    | 「倫, 政経」             | 数             |       |        | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B            |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |
|          | 数                     | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」    | 外             |       |        | 英, 独, 仏, 中 から1         |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |
| 理        | 物基, 化基,               | から2                 |               |       | 計      | 150                    | 150    | 200 | 100 | 200 | 800 |                   |      |              |     |
| 外        | 生基, 地基<br>(※注1 2. 参照) |                     |               |       |        |                        |        |     |     |     |     | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 |      |              |     |
|          |                       | [5教科8科目]または[6教科8科目] |               |       |        |                        |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |
| 理系       | 国語                    | 国語                  | 国語総合・現代文B・古典B | 約3.5倍 |        | センター試験                 | *      | 100 |     | *   | *   | *                 | 100  |              |     |
|          | 地歴                    | 世B, 日B, 地理B,        | 数理            |       |        | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B         | 個別学力検査 | 150 |     |     | 200 | 200               | 150  | 700          |     |
|          | 公民                    | 「倫, 政経」             | 物理, 化学,       |       |        | から2                    |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |
|          | 数                     | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」    | 生物, 地学        |       |        |                        |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |
| 理        | 物理, 化学,               | から2                 |               |       | 計      | 150                    | 100    | 200 | 200 | 150 | 800 |                   |      |              |     |
| 外        | 生物, 地学                |                     |               |       |        |                        |        |     |     |     |     | 英, 独, 仏, 中 から1    |      |              |     |
|          |                       | [5教科7科目]            |               |       |        |                        |        |     |     |     |     |                   |      |              |     |

(注1)「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 理系の「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
2. 文系の「理科」について，「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」，「地学基礎」（以下，「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに，「物理」，「化学」，「生物」，「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は，合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。  
英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。  
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行います。

(注2)「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について  
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
2. 「数学」について



(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

**〔注3〕「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について**

大学入試センター試験で課す\*印の付いた教科の得点は、他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが、学力検査等の得点対象としません。

# 【文学部】

◇募集人員 210 人（前期日程：210 人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                                          | 個別学力検査等 |                 |         | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |     |    |     |    |     |      | その他の選抜方法等 |
|---------------------|------------------------------------------|---------|-----------------|---------|------------------------|-----|-----|----|-----|----|-----|------|-----------|
| 教科                  | 科目名等                                     | 教科      | 科目名等            | 第1段階選抜  | 試験の区分                  | 国語  | 地歴  | 公民 | 数学  | 理科 | 外国語 | 配点合計 |           |
| 国                   | 国語                                       | 国       | 国語総合・現代文B・古典B   | 約 3.5 倍 | センター試験                 | 50  | 50  |    | 50  | 50 | 50  | 250  | 特色入試追加合格  |
| 地歴                  | 世B, 日B, 地理B, } から2                       | 地歴      | 世B, 日B, 地理B から1 |         |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
| 公民                  | 「倫, 政経」                                  | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B     |         | 個別学力検査                 | 150 | 100 |    | 100 |    | 150 | 500  |           |
| 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」                         | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1  |         |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
| 理                   | 物基, 化基, } から2                            |         |                 |         |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|                     | 生基, 地基 (※注1 参照)                          |         |                 |         | 計                      | 200 | 150 |    | 150 | 50 | 200 | 750  |           |
| 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1<br>[5教科8科目]または[6教科8科目] |         |                 |         |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200 点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ 100 点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点，リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について  
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- 「数学」について
  - 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。
  - 出題範囲  
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は, 大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点(ただし, 英語は250点満点を200点満点に換算)の合計により, 第1段階選抜を行うことがあります。

# 【教育学部】

◇募集人員 54 人（前期日程：文系 44 人・理系 10 人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 学力検査等の区分 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                                 | 個別学力検査等 |                                              |        | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |     |     |     |     |     |      | その他の選抜方法等 |
|----------|---------------------|---------------------------------|---------|----------------------------------------------|--------|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----------|
|          | 教科                  | 科目名等                            | 教科      | 科目名等                                         | 第1段階選抜 | 試験の区分                  | 国語  | 地歴  | 公民  | 数学  | 理科  | 外国語 | 配点合計 |           |
| 文系       | 国                   | 国語                              | 国       | 国語総合・現代文B・古典B                                | 約3.5倍  | センター試験                 | 50  | 50  |     | 50  | 50  | 50  | 250  | 特色入試追加合格  |
|          | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,                    | 地歴      | 世B, 日B, 地理B から1                              |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |
|          | 公民                  | 「倫, 政経」                         | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B                                  |        | 個別学力検査                 | 200 | 100 |     | 150 |     | 200 | 650  |           |
|          | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」                | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1                               |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |
| 理系       | 理                   | 物基, 化基,<br>生基, 地基<br>(※注1 2.参照) | 外       | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1<br><br>[5教科8科目]または[6教科8科目] | 計      | 250                    | 150 |     | 200 | 50  | 250 | 900 |      |           |
|          | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1               |         |                                              |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |
| 理系       | 国                   | 国語                              | 国       | 国語総合・現代文B・古典B                                | 約3.5倍  | センター試験                 | 50  | 50  |     | 50  | 50  | 50  | 250  |           |
|          | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,                    | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B                               |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |
|          | 公民                  | 「倫, 政経」                         | 理       | 物理, 化学,<br>生物, 地学                            |        | 個別学力検査                 | 150 |     |     | 200 | 100 | 200 | 650  |           |
|          | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」                | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1                               |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |
| 理系       | 理                   | 物理, 化学,<br>生物, 地学               | 外       | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1<br><br>[5教科7科目]            | 計      | 200                    | 50  |     | 250 | 150 | 250 | 900 |      |           |
|          | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1               |         |                                              |        |                        |     |     |     |     |     |     |      |           |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 理系の「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績を用います。
2. 文系の「理科」について, 「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」(以下, 「基礎を付した科目」という。)のうちから2科目を選択するかわりに, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は, 合計得点(200点満点)を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。  
英語 250点満点(筆記 200点満点, リスニング 50点満点)を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。  
なお, ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について  
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

## 2. 「数学」について

### (1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

### (2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

## 3. 「理科」について

### (1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

## 4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

## 5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

# 【法学部】

◇入学定員 330 人（募集人員 前期日程 310 人（外国学校出身者のための選考入学者 10 人以内を含む）

後期日程（特色入試）20 人）

※法学部は「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集します。

※「後期日程（特色入試）」試験については 22～23 ページ参照。

| 募集<br>区<br>分                   | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                                              | 個別学力検査等 |                 |                          | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |       |       |    |       |       |       |              | その他<br>の選抜<br>方法等           |
|--------------------------------|---------------------|----------------------------------------------|---------|-----------------|--------------------------|------------------------|-------|-------|----|-------|-------|-------|--------------|-----------------------------|
|                                | 教科                  | 科 目 名 等                                      | 教科      | 科 目 名 等         | 第1段階<br>選抜               | 試験の区分                  | 国語    | 地歴    | 公民 | 数学    | 理科    | 外国語   | 配点<br>合計     |                             |
| 前<br><br><br><br><br><br><br>期 | 国                   | 国語                                           | 国       | 国語総合・現代文B・古典B   | 前期募<br>集人員<br>の約<br>3.5倍 | センター試験                 | (200) | (200) |    | (200) | (100) | (200) | 270<br>(900) | 外国学校<br>出身者<br><br><br>追加合格 |
|                                | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,                                 | 地歴      | 世B, 日B, 地理B から1 |                          | 個別学力検査                 | 150   | 100   |    | 150   |       | 150   | 550          |                             |
|                                | 公民                  | 「倫, 政経」<br>(※注1 1.参照)                        | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B     |                          |                        |       |       |    |       |       |       |              |                             |
|                                | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」                             | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1  |                          |                        |       |       |    |       |       |       |              |                             |
|                                | 理                   | 物基, 化基,<br><br>生基, 地基<br>(※注1 2.参照)          |         |                 |                          | 計                      |       |       |    |       |       |       | 820          |                             |
|                                | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1<br><br>[5教科8科目]または[6教科8科目] |         |                 |                          |                        |       |       |    |       |       |       |              |                             |

※法学部の試験成績は、大学入試センター試験の成績（合計の 900 点満点を 270 点満点に換算）と個別学力検査の成績（550 点満点）とを総合（820 点満点）して算出します。

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 「地理歴史, 公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
2. 「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200 点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ 100 点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点, リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行います。

## （注2）「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について  
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
2. 「数学」について  
(1) 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学A」, 「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」,「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は,大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点(ただし,英語は250点満点を200点満点に換算)の合計により,第1段階選抜を行うことがあります。

# 【法学部 特色入試】（後期日程）

◇募集人員20人

| 募集<br>区分   | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                                              | 能力測定考査 |         |                                | 大学入試センター試験・能力測定考査の配点等 |       |       |    |       |       |       |     |              |
|------------|---------------------|----------------------------------------------|--------|---------|--------------------------------|-----------------------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-----|--------------|
|            | 教科                  | 科 目 名 等                                      | 教科     | 科 目 名 等 | 第1次<br>選 考                     | 試験の区分                 | 国語    | 地歴    | 公民 | 数学    | 理科    | 外国語   | 小論文 | 配点<br>合計     |
| 後期<br>特色入試 | 国                   | 国語                                           | その他    | 小論文     | 後 期 募<br>集 人 員<br>の 約<br>15.0倍 | センター試験                | (200) | (200) |    | (200) | (100) | (200) |     | 270<br>(900) |
|            | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,                                 |        |         |                                | 能力測定考査                |       |       |    |       |       |       |     |              |
|            | 公民                  | 「倫, 政経」<br>(※注1 1.参照)                        |        |         |                                |                       |       |       |    |       |       | 100   | 100 |              |
|            | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」                             |        |         |                                | 計                     |       |       |    |       |       |       |     |              |
|            | 理                   | 物基, 化基,<br>生基, 地基<br>(※注1 2.参照)              |        |         |                                |                       |       |       |    |       |       |       |     | 370          |
|            | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1<br><br>(5教科8科目)または(6教科8科目) |        |         |                                |                       |       |       |    |       |       |       |     |              |

※合格者は、第1次選考に合格した者について、大学入試センター試験の成績（合計の900点満点を270点満点に換算）及び小論文試験の成績（100点満点）により決定します。

※別途公表している「特色入試学生募集要項」も併せて確認してください。

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 「地理歴史, 公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
2. 「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。  
英語 250点満点（筆記 200点満点, リスニング 50点満点）を第1次選考においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。  
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1次選考を行います。

## （注2）「能力測定考査」について

1. 「小論文」について  
小論文試験は、日本語と英語の文章を題材に、読解力, 論理的思考力, 表現力などについて評価します。



## 2. 第1次選考について

第1次選考は、大学入試センター試験及び調査書の成績により選考を行い、募集人員の15.0倍程度を目安として合格者を決定します。

# 【経済学部】

◇募集人員 215 人（前期日程：文系 190 人・理系 25 人・その他若干名）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

※「文系」は外国学校出身者のための選考入学者 10 人以内を含む。

| 学力検査等の区分 | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                     | 個別学力検査等 |                 |        | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |     |    |     |    |     |      | その他の選抜方法等 |
|----------|---------------------|---------------------|---------|-----------------|--------|------------------------|-----|-----|----|-----|----|-----|------|-----------|
|          | 教科                  | 科目名等                | 教科      | 科目名等            | 第1段階選抜 | 試験の区分                  | 国語  | 地歴  | 公民 | 数学  | 理科 | 外国語 | 配点合計 |           |
| 文系       | 国                   | 国語                  | 国       | 国語総合・現代文B・古典B   | 約3.5倍  | センター試験                 | 50  | 50  |    | 50  | 50 | 50  | 250  | 外国学校出身者   |
|          | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,        | 地歴      | 世B, 日B, 地理B から1 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      | 外国人       |
|          | 公民                  | 「倫, 政経」             | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B     |        | 個別学力検査                 | 150 | 100 |    | 150 |    | 150 | 550  | 特色入試      |
|          | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」    | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1  |        |                        |     |     |    |     |    |     |      | 追加合格      |
|          | 理                   | 物基, 化基,             |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          |                     | 生基, 地基              |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          |                     | (※注1 2参照)           |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1   |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          |                     | [5教科8科目]または[6教科8科目] |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
| 理系       | 国                   | 国語                  | 国       | 国語総合・現代文B・古典B   | 約3.5倍  | センター試験                 | 50  | 50  |    | 50  | 50 | 50  | 250  |           |
|          | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,        | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B  |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          | 公民                  | 「倫, 政経」             | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1  |        | 個別学力検査                 | 150 |     |    | 300 |    | 200 | 650  |           |
|          | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」    |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          | 理                   | 物理, 化学,             |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          |                     | 生物, 地学              |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1   |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |
|          |                     | [5教科6科目]            |         |                 |        |                        |     |     |    |     |    |     |      |           |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 理系の「地理歴史、公民」及び「理科」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
- 文系の「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## (注2)「個別学力検査等」について

### 1. 「地理歴史」について

大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

### 2. 「数学」について

#### (1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学A」，「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

#### (2) 出題範囲

「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

### 3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」，「コミュニケーション英語Ⅱ」，「コミュニケーション英語Ⅲ」，「英語表現Ⅰ」，「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

### 4. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は，各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし，英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により，第1段階選抜を行うことがあります。

# 【理学部】

◇募集人員306人（前期日程：306人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                   | 個別学力検査等          |                |                                        | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |        |     |     |     |     |      |      | その他の選抜方法等    |     |                  |
|---------------------|-------------------|------------------|----------------|----------------------------------------|------------------------|--------|-----|-----|-----|-----|------|------|--------------|-----|------------------|
| 教科                  | 科目名等              | 教科               | 科目名等           | 第1段階選抜                                 | 試験の区分                  | 国語     | 地歴  | 公民  | 数学  | 理科  | 外国語  | 配点合計 |              |     |                  |
| 国                   | 国語                | 国<br>数<br>理<br>外 | 国語総合・現代文B・古典B  | センター試験<br>の得点が<br>630点以上<br>(※注2 4.参照) | センター試験                 | 50     | 25  |     | 50  | 50  | 50   | 225  | 特色入試<br>追加合格 |     |                  |
| 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,      |                  | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B |                                        | 物理, 化学,<br>生物, 地学      | 個別学力検査 | 150 |     |     | 300 | 300  | 225  |              | 975 |                  |
| 公民                  | 「倫, 政経」           |                  |                |                                        |                        |        |     |     |     |     |      |      |              |     | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」 |
| 数                   |                   |                  |                |                                        |                        |        |     |     |     |     |      |      |              |     |                  |
| 理                   | 物理, 化学,<br>生物, 地学 | 英                |                | 計                                      | 200                    | 25     |     | 350 | 350 | 275 | 1200 |      |              |     |                  |
| 外                   | 英                 |                  |                |                                        |                        |        |     |     |     |     |      |      |              |     |                  |
| [5教科7科目]            |                   |                  |                |                                        |                        |        |     |     |     |     |      |      |              |     |                  |

[5教科7科目]

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績を用います。
2. 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点, リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。  
なお, リスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

1. 「数学」について
  - (1) 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
  - (2) 出題範囲  
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
2. 「理科」について
  - (1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
  - (2) 物理: 「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
  - (3) 化学: 「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
  - (4) 生物: 「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
  - (5) 地学: 「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」, 「コミュニケーション英語Ⅱ」, 「コミュニケーション英語Ⅲ」, 「英語表現Ⅰ」, 「英語表現Ⅱ」, の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者を第1段階選抜合格者とします。

# 【医学部】

◇募集人員 172 人（前期日程：医学科 102 人，人間健康科学科 70 人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 学科名     | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                   | 個別学力検査等 |                |                    | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |    |    |     |     |     |             |      | その他の選抜方法等    |
|---------|---------------------|-------------------|---------|----------------|--------------------|------------------------|-----|----|----|-----|-----|-----|-------------|------|--------------|
|         | 教科                  | 科目名等              | 教科等     | 科目名等           | 第1段階選抜             | 試験の区分                  | 国語  | 地歴 | 公民 | 数学  | 理科  | 外国語 | 面接          | 配点合計 |              |
| 医学科     | 国                   | 国語                | 国       | 国語総合・現代文B・古典B  | ※注2<br>5.(1)<br>参照 | センター試験                 | 50  | 50 |    | 50  | 50  | 50  |             | 250  | 特色入試<br>追加合格 |
|         | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B       | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B |                    | 個別学力検査                 | 150 |    |    | 250 | 300 | 300 | ※注2<br>4.参照 | 1000 |              |
|         | 公民                  | 「倫, 政経」           | 理       | 物理, 化学, 生物 から2 |                    | 計                      | 200 | 50 |    | 300 | 350 | 350 | ※注2<br>4.参照 | 1250 |              |
| 人間健康科学科 | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」  | 外       | 英, 独, 仏, 中 から1 | 学科募集人員の<br>約 3.5 倍 | センター試験                 | 50  | 50 |    | 50  | 50  | 50  |             | 250  | 特色入試<br>追加合格 |
|         | 理                   | 物理, 化学, 生物 から2    | 英       |                |                    | 個別学力検査                 | 150 |    |    | 200 | 200 | 200 |             | 750  |              |
|         | 外                   | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 |         |                |                    | 計                      | 200 | 50 |    | 250 | 250 | 250 |             | 1000 |              |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点，リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
  - 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
  - 出題範囲  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

## 2. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

## 3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」，「コミュニケーション英語Ⅱ」，「コミュニケーション英語Ⅲ」，「英語表現Ⅰ」，「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

## 4. 「面接」について

医学科：面接試験では，‘医学部が望む学生像’（【学部・学科紹介】参照）に記載されている医師・医学研究者としての適性・人間性などについて評価を行い，学科試験の成績と総合して合否を判定します。

従って，学科試験の成績の如何にかかわらず不合格となることがあります。

調査書は，面接の参考資料にします。

高等学校卒業後5年以上で調査書の記載がないもの，記載内容が不明確なもの，あるいは，疑義のあるものなどは，別途指定した書類の提出を卒業学校等へ依頼することがあります。

また，面接の参考資料とするため，個別学力検査受験者全員から，履歴書・志望理由などを記載した書類（受験票送付時に同封する本学科所定用紙）の提出を求めます。

## 5. 第1段階選抜について

(1) 医学科は，利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし，英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者のうちから，募集人員の約3倍までの者を総得点の順位に従って第1段階選抜の合格者とします。

(2) 人間健康科学科は，入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は，大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし，英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により，第1段階選抜を行うことがあります。

# 【薬学部】

◇募集人員 77 人（前期日程：薬科学科 47 人・その他若干名、薬学科 30 人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

| 学科名  | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                      | 個別学力検査等               |               |                  | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |        |     |    |     |     |     |      | その他の選抜方法等                               |                            |
|------|---------------------|----------------------|-----------------------|---------------|------------------|------------------------|--------|-----|----|-----|-----|-----|------|-----------------------------------------|----------------------------|
|      | 教科                  | 科目名等                 | 教科                    | 科目名等          | 第1段階選抜           | 試験の区分                  | 国語     | 地歴  | 公民 | 数学  | 理科  | 外国語 | 配点合計 |                                         |                            |
| 薬科学科 | 国                   | 国語                   | 国<br>数<br>理<br>外<br>英 | 国語総合・現代文B・古典B | 各学科ごとの募集人員の約3.5倍 | センター試験                 | 50     | 50  |    | 50  | 50  | 50  | 250  | 外国人<br>（薬科学科）<br>特色入試<br>（薬科学科）<br>追加合格 |                            |
|      | 地歴<br>公民            | 世B、日B、地理B、<br>「倫、政経」 |                       | 数<br>理        |                  |                        |        |     |    |     |     |     |      |                                         | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B<br>物理、化学、生物 |
|      | 数                   | 「数Ⅰ・数A」、<br>「数Ⅱ・数B」  |                       | 英             |                  |                        |        |     |    |     |     |     |      |                                         |                            |
| 薬学科  | 理                   | 物理、化学、<br>生物、地学      |                       |               |                  |                        | 個別学力検査 | 100 |    |     | 200 | 200 | 200  |                                         | 700                        |
|      | 外                   | 英、独、仏、中、韓            |                       |               |                  |                        |        |     |    |     |     |     |      |                                         |                            |
|      |                     |                      |                       |               |                  | 計                      | 150    | 50  |    | 250 | 250 | 250 | 950  |                                         |                            |
|      |                     |                      |                       |               |                  |                        |        |     |    |     |     |     |      |                                         |                            |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史、公民」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
  - 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
  - 出題範囲  
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
  - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
  - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
  - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
  - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。



3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

# 【工学部】

- ◇募集人員 937 人（前期日程：地球工学科 182 人，建築学科 80 人，物理工学科 235 人，電気電子工学科 125 人，情報学科 87 人，工業化学科 228 人，その他若干名）
- ※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。
- ※地球工学科は，外国人留学生を対象とした国際コースのための選考入学者 30 人以内を含む。

|                       | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                   | 個別学力検査等 |                |              | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |     |    |     |     |     | その他の選抜方法等 |                              |
|-----------------------|---------------------|-------------------|---------|----------------|--------------|------------------------|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----------|------------------------------|
|                       | 教科                  | 科目名等              | 教科      | 科目名等           | 第1段階選抜       | 試験の区分                  | 国語  | 地歴  | 公民 | 数学  | 理科  | 外国語 |           | 配点合計                         |
| 全<br>学<br>科<br>共<br>通 | 国                   | 国語                | 国       | 国語総合・現代文B・古典B  | 学部募集人員の約3.0倍 | センター試験                 | 50  | 100 |    | *   | *   | 50  | 200       | 外国人<br>国際コース<br>特色入試<br>追加合格 |
|                       | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,      | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       | 公民                  | 「倫, 政経」           | 理       | 物理             |              | 個別学力検査                 | 100 |     |    | 250 | 250 | 200 | 800       |                              |
|                       | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」  | 外       | 化学             |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       | 理                   | 物理(必ず選択すること)      |         | 英              |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       | 外                   | 化学, 生物 から1        |         |                |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       |                     | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 |         |                |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       |                     | [5教科7科目]          |         |                |              |                        |     |     |    |     |     |     |           |                              |
|                       |                     |                   |         |                |              | 計                      | 150 | 100 |    | 250 | 250 | 250 | 1000      |                              |

## （注 1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2 科目を受験したときは，第 1 解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点，リスニング 50 点満点）を第 1 段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第 1 段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注 2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
  - 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の 5 科目を併せて「数学」として出題します。
  - 出題範囲  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
  - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
  - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

工学部全体の志願者が工学部募集人員の約3.0倍を上回った場合,大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点(ただし,英語は250点満点を200点満点に換算)の合計により,工学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第2志望まで学科を選択することができます。

**(注3)「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について**

大学入試センター試験で課す\*印の付いた教科の得点は,他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが,学力検査等の得点対象としません。

# 【農学部】

◇募集人員 282 人（前期日程：資源生物科学科 91 人，応用生命科学科 44 人，地域環境工学科 34 人，食料・環境経済学科 29 人，森林科学科 54 人，食品生物科学科 30 人，その他若干名）  
※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加える。

|                       | 大学入試センター試験の利用教科・科目名 |                   | 個別学力検査等 |                |                  | 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 |     |     |    |     |     |     |      | その他の選抜方法等           |
|-----------------------|---------------------|-------------------|---------|----------------|------------------|------------------------|-----|-----|----|-----|-----|-----|------|---------------------|
|                       | 教科                  | 科目名等              | 教科      | 科目名等           | 第1段階選抜           | 試験の区分                  | 国語  | 地歴  | 公民 | 数学  | 理科  | 外国語 | 配点合計 |                     |
| 全<br>学<br>科<br>共<br>通 | 国                   | 国語                | 国       | 国語総合・現代文B・古典B  | 学部募集人員<br>の約3.5倍 | センター試験                 | 100 | 100 |    | 50  | 50  | 50  | 350  | 外国人<br>特色入試<br>追加合格 |
|                       | 地歴                  | 世B, 日B, 地理B,      | 数       | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B |                  |                        |     |     |    |     |     |     |      |                     |
|                       | 公民                  | 「倫, 政経」           | 理       | 物理, 化学,        |                  | 個別学力検査                 | 100 |     |    | 200 | 200 | 200 | 700  |                     |
|                       | 数                   | 「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」  | 外       | 生物, 地学         |                  |                        |     |     |    |     |     |     |      |                     |
|                       | 理                   | 物理, 化学,           |         | 英, 独, 仏, 中 から1 |                  |                        |     |     |    |     |     |     |      |                     |
| 外                     | 生物, 地学              |                   |         |                |                  |                        |     |     |    |     |     |     |      |                     |
|                       |                     | 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 |         |                |                  | 計                      | 200 | 100 |    | 250 | 250 | 250 | 1050 |                     |
|                       |                     | [5教科7科目]          |         |                |                  |                        |     |     |    |     |     |     |      |                     |

## （注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。  
英語 250 点満点（筆記 200 点満点，リスニング 50 点満点）を第1段階選抜においては 200 点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を 0 点として取り扱います。  
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200 点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

## （注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
  - 個別学力検査実施科目  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
  - 出題範囲  
「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
  - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
  - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
  - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
  - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
  - 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

農学部全体の志願者が農学部募集人員の約3.5倍を上回った場合、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、農学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第6志望まで学科を選択することができます。

## VII 外国学校出身者のための選考

### ◎外国学校出身者のための法学部入学者の選考

経済・文化等各般にわたる国際的活動の拡大に伴い、海外に在留する日本人で現地の正規の学校や国際学校で教育を受けている者の数は飛躍的に増大しており、諸外国での教育や国際バカロレアのカリキュラムによる教育は、わが国の教育とは異なっていますが、すぐれた成果を挙げています。

このような状況の下で、諸外国で多様な文化に接触し、外国語も修得しつつ、基礎的学力を身につけた者に入学の機会を与えることは、学生の多様性を確保し、一般学生に対し国際的視野を開く契機を提供することになります。そして、そのことを通じて、グローバルな視点で法と政治の問題を捉え、国際的に活躍しうる有為の人材を養成することが可能となると考えられます。

そこで、国際化時代における大学としてのあり方を考え、外国学校出身者に対して、国籍の制限なく、一般の入学者選抜方法とは別の方法で選考を行います。

| 実施学部    | 法 学 部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 募集人員    | 10人以内                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 出 願 資 格 | <p>次の1. 2. 3. 4. 5. のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>外国において、学校教育における12年の課程を平成27年4月1日から平成29年3月31日までに、卒業（修了）した者、又は卒業（修了）見込みの者。<br/>上記の12年の課程には、日本における通常の課程による学校教育の期間も含まれるが、外国において最終学年を含めて原則として2年以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その在学期間を外国において学校教育を受けた期間とはみなさない。</li> </ol> <p>（注）1. 大学入学資格として少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により、通算教育年数12年に満たないで卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者を含む。<br/>2. 「外国において、学校教育における12年の課程」とは、当該外国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>外国において、平成27年4月1日から平成29年3月31日までに上記「1」以外の学校を卒業（修了）した者、又は卒業（修了）見込みの者であって、本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月31日までに18歳に達するもの。<br/>外国において最終学年を含めて原則として2年以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その在学期間を外国において学校教育を受けた期間とはみなさない。</li> <li>平成29年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格を平成27年4月1日から平成29年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。</li> <li>平成29年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成27年4月1日から平成29年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。</li> <li>平成29年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成27年4月1日から平成29年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。</li> </ol> <p>※ 出願資格について不明な点がある場合は、平成28年10月上旬頃までに法学部教務掛に照会すること。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、出願資格「2」に該当し、出願資格審査を受けなければならない場合があるので、早めに照会すること。</p> |
| 選考方法等   | <p>以下の3つの成績を総合評価して、基礎学力と日本語の熟達度を判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>京都大学個別学力検査（前期日程）国語（理系）の成績<br/>※主として現代文を扱う問題に限りて解答を求める。「国語（理系）」について、当日、一部の問題について解答しなくてよいものを指定することがある。</li> <li>TOEFL-iBTの成績（TOEFL-ITPとTOEFL-PBTは不可）</li> <li>面接（日本語で実施する）の成績</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 出願期間    | 平成29年1月10日（火） から 1月16日（月）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 選考期日    | 平成29年2月25日（土）・26日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 合格発表日   | 平成29年3月10日（金）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| そ の 他   | <p>学生募集要項等について</p> <p>この選考に関する募集要項は、法学部教務掛で配布します。郵送を希望する者は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記した返信用封筒（角形2号332mm×240mm）を同封し、受信者が日本国内に居住する場合には205円切手を返信用封筒に貼付し、受信者が外国に居住する場合には航空便書状110グラム料金相当の国際返信切手券（日本国内では、現地での購入価格に関係なく、1枚につき130円分の切手と交換される。）を同封して、「外国学校出身者出願書類請求」と朱書して下記へ申し込んでください。</p> <p>なお、郵便料金については日本郵政ホームページ（<a href="http://www.japanpost.jp">http://www.japanpost.jp</a>）を利用するなどして、各自で確認してください。</p> <p>京都大学法学部教務掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町<br/>電話：075-753-3107 メール：gaikoku03@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## ◎外国学校出身者のための経済学部入学者の選考

海外で経済・文化等の活動にたずさわる邦人の数が増すとともに、その子女で諸外国において正規の学校ないし国際バカロレア制度による学校で教育を受ける者の数も飛躍的に多くなっていますが、こうした学校における教育は、わが国の制度による教育とは異なっているにもかかわらず、十分に評価されるべきものです。

諸外国で学校教育を受け、日本と異なる文化に接しながら、しかも十分な基礎的学力を身につけた者に入学の機会を与えることは、国際化時代に即応した大学の役割をはたす上で必要でもあり、有用でもあります。

このため、外国学校出身者に対し、一般の入学者選抜方法とは別の方法で選考を行います。

| 実施学部  | 経 済 学 部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 募集人員  | 10人以内                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 出願資格  | <p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、外国において2年以上継続して外国の学校教育を受けている者のうち、平成27年4月1日から平成29年3月31日までに次の1～6のいずれかに該当するもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による教育期間を含む）を修了した者及び修了見込みの者で、最終学年を含め2年以上継続して学校教育を受けたもの<br/>（注）大学入学資格として少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により、通算12年に満たないで修了した者及び修了見込みの者を含む。</li> <li>2. 外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による教育期間を含む）に基づく高等学校相当機関の2年を含む3年間以上継続して学校教育を受けた後、中途退学し、引き続き日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）の第3学年に編入学を認められた者で、卒業したもの及び卒業見込みのもの</li> <li>3. 外国において、学校教育における12年の課程修了相当の学力認定試験に合格した者で、18歳に達するもの</li> <li>4. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局の授与する国際バカロレア資格を取得した者で、18歳に達するもの</li> <li>5. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、18歳に達するもの</li> <li>6. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、18歳に達するもの</li> </ol> <p>※インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、出願が認められない場合や出願資格の確認に時間がかかる場合もあるので、できるだけ早い時期に、出願資格について経済学部教務掛へ照会すること。</p> |
| 選抜方法等 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1次選考・・・出願書類を資料として用い、第1次選考を行う。</li> <li>2. 第2次選考・・・第1次選考合格者に対し、小論文（日本語）、面接を課し、基礎的学力と日本語の熟達度を判定する。</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 出願期間  | 平成29年1月4日（水）から1月10日（火）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 選抜期日  | 平成29年2月25日（土）・2月26日（日）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 合格発表日 | 平成29年3月10日（金）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| その他   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 併願について<br/>本学部では、本学他学部における外国学校出身者選考試験との併願を認めないので、注意してください。</li> <li>2. 学生募集要項等について<br/>この選考に関する募集要項は、経済学部教務掛で配付します。郵送を希望する者は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記した返信用封筒（角形2号332mm×240mm）を同封し、受信者が日本国内に居住する場合には205円分の切手を返信用封筒に貼付してください。受信者が外国に居住する場合には国々の郵便事情により返信が遅れることが考えられます。そのため国際スピード便（EMS）を利用しますので、国際スピード便のホームページ [http://www.ems-post.jp/] のEMS料金表を参照し、地域ごとによる重量300グラムの料金分の国際返信切手券を返信用として同封のうえ、「外国学校出身者出願書類請求」と朱書して下記へ申し込んでください。<br/>京都大学経済学部教務掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町<br/>電話：075-753-3493 メール：kyoumu*econ.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## VIII 工学部地球工学科国際コースについて

### ◎外国人留学生を対象とした入学者の選考

工学部地球工学科国際コースでは、拡大する都市と周辺地域の地球環境・エネルギー問題に配慮して社会基盤を整備、マネジメントするために将来国際的に活躍できる人材の育成を行います。このコースでは、多様な国籍の学生が共に学べるように、卒業までの全ての講義が英語で行われます。

外国人留学生を対象に一般の入学者選抜方法とは別の渡日を必要としない方法で選考を行います。

| 実施学部・学科 | 工学部地球工学科                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 募集人員    | 30人以内                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 出願資格    | <p>日本の国籍（日本国籍との二重国籍を含む）を有しない者で、以下のうち少なくとも1つに該当する者。</p> <p>a) 外国において、学校教育における12年の課程を平成29年3月31日までに修了する者。</p> <p>b) 日本において文部科学省に認められた、または Western Association of Schools and Colleges (WASC), Association of Christian Schools International (ACSI), Council of International Schools (CIS) に認定された外国の教育課程にもとづいた教育機関を平成29年3月31日までに修了し、平成29年3月31日までに満18歳に達する者。</p> <p>c) 外国において中等教育機関で国際バカロレア、ドイツのアビトゥア、またはバカロレアを取得し、平成29年3月31日までに満18歳に達する者。</p> <p>d) 上記a) に準ずる者（平成28年7月1日（金）から平成28年7月15日（金）の出願事前資格審査期間に所定の書類を提出し、京都大学によって出願が認められた者）</p> |
| 選抜方法等   | 出願書類による第1次選抜と、小論文及び口頭試問による第2次選抜により選考を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 出願期間    | 平成28年8月20日（土）から平成28年9月15日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 選抜期間    | <p>第1次選抜：平成28年10月上旬</p> <p>第2次選抜：平成28年10月下旬</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 合格者発表日  | 平成28年11月10日（木）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| その他     | <p>このコースの詳細及び募集要項はホームページに掲載しています。</p> <p><a href="http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/">http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/</a></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

\* 一般入試で受験された方も合格後、本コースを選択することが可能です。

|      |                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 応募資格 | 一般入試を受験した工学部地球工学科合格者（国籍不問）                                                                                                                                                                            |
| 募集人員 | 10人以内                                                                                                                                                                                                 |
| 決定方法 | 平成29年3月中旬に開催する説明会后、面接を受けた者の中から決定します。                                                                                                                                                                  |
| その他  | <p>本コースに興味のある方は、事前に下記のホームページで説明会の日程を確認してください。</p> <p><a href="http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/">http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/</a></p> <p>問い合わせ先：icp@t.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）</p> |



## IX 特色入試について

各学部の募集人員及び選抜方法等は下表のとおりです。

なお、詳細については別途公表している「特色入試学生募集要項」をご覧ください。

| 学部・学科・コース名 |           |                            | 募集人員 | 選 抜 方 法                                 | 試験実施方式 | 提 出 書 類                                                                 |
|------------|-----------|----------------------------|------|-----------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------|
| 総合人間学部     |           |                            | 5名   | 書類審査, 能力測定考査(文系総合問題, 理系総合問題), センター試験の成績 | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
| 文学部        |           |                            | 10名  | 書類審査, 論文試験, 「学びの設計書」に関する論述試験, センター試験の成績 | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
| 教育学部       |           |                            | 6名   | 書類審査, 課題及び口頭試問によるパフォーマンス評価, センター試験の成績   | 学力型 AO | 調査書, 学びの報告書, 学びの設計書                                                     |
| 法学部        |           |                            | 20名  | 書類審査, 小論文試験, センター試験の成績                  | 後期日程   | 調査書                                                                     |
| 経済学部       |           |                            | 25名  | 書類審査, 論文試験, センター試験の成績                   | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
| 理学部        |           |                            | 5名   | 書類審査, 数学に関する能力測定考査, 口頭試問, センター試験の成績     | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの報告書                                                    |
| 医学部        | 医学科       |                            | 5名   | 書類審査, 小論文試験, 面接試験                       | 推薦     | 調査書, 推薦書, 学びの設計書, TOEFL-iBT のスコアレポート(原本)又はIELTS の成績証明書(原本), 特色事項に関する資料  |
|            | 人間健康科学科   | 先端看護科学コース                  | 20名  | 書類審査, 論文試験, 面接試験, センター試験の成績             | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
|            |           | 先端リハビリテーション科学コース(理学療法学科講座) | 5名   |                                         |        |                                                                         |
|            |           | 先端リハビリテーション科学コース(作業療法学科講座) | 5名   |                                         |        |                                                                         |
| 薬学部        | 薬科学科      |                            | 3名   | 書類審査, 論文試験, 面接試験, センター試験の成績             | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書, TOEFL-iBT のスコアレポート(原本)又はIELTS の成績証明書(原本)          |
| 工学部        | 地球工学科     |                            | 3名   | 書類審査, センター試験の成績                         | 推薦     | 調査書, 推薦書, 学びの設計書                                                        |
|            | 電気電子工学科   |                            | 5名   | 書類審査, センター試験の成績                         |        | 調査書, 推薦書, 学びの設計書, 顕著な活動実績の概要                                            |
|            | 情報学科      |                            | 3名   | 書類審査, 口頭試問, センター試験の成績                   |        | 調査書, 推薦書, 学びの設計書, 顕著な活動実績の概要                                            |
|            | 工業化学科     |                            | 7名   | 書類審査, センター試験の成績                         |        | 調査書, 推薦書, 学びの設計書, 顕著な活動実績の概要                                            |
| 農学部        | 資源生物科学科   |                            | 3名   | 書類審査, 面接試験, センター試験の成績                   | 学力型 AO | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書, TOEFL-iBT, TOEIC, 実用英語検定(英検)のうち少なくとも1つの受験者成績書(原本) |
|            | 応用生命科学科   |                            | 3名   | 書類審査, 小論文試験, 面接試験, センター試験の成績            |        | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
|            | 地域環境工学科   |                            | 3名   | 書類審査, 小論文試験, 面接試験, センター試験の成績            |        | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
|            | 食料・環境経済学科 |                            | 3名   | 書類審査, 小論文試験, センター試験の成績                  |        | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
|            | 森林科学科     |                            | 3名   | 書類審査, 小論文試験, 面接試験, センター試験の成績            |        | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書                                                    |
|            | 食品生物科学科   |                            | 3名   | 書類審査, 口頭試問, センター試験の成績                   |        | 調査書, 学業活動報告書, 学びの設計書, TOEFL-iBT, TOEIC, 実用英語検定(英検)のうち少なくとも1つの受験者成績書(原本) |

注) 法学部を除き、選考の結果によっては合格者数が募集人員に満たない場合がありますが、その欠員分は一般入試(前期日程試験)の募集人員に加えます。

## X 障害等のある入学志願者との事前相談について

本学では、障害等があつて受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時受け付けています。相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、下の様式を用いて、出願前の早い時期に、志望する学部・学科の教務担当へ連絡してください。

特に下表に相当する障害がある入学志願者については、12月末までに連絡がない場合、受験上の配慮が講じられない場合もありますので十分注意してください。

なお、本学ではこれまでに受験に際して、拡大文字問題冊子の配付、別室試験室の設定、トイレに近い試験室の割り当て、注意事項等の文書による伝達、試験時間の延長などを実施しています。

| 区 分     | 障 害 の 程 度                                                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 視 覚 障 害 | ・両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のも                     |
| 聴 覚 障 害 | ・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のも                                        |
| 肢体不自由   | ・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のも<br>・肢体不自由の状態が上記に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のも |
| 病 弱     | ・慢性の呼吸器疾患、肝臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のも<br>・身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のも                  |

[様式]

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>(様式) A4判縦</p> <p style="text-align: right;">平成    年    月    日</p> <p>京都大学〇〇学部長    殿</p> <p style="text-align: right;">氏名（ふりがな）・生年月日<br/>性別・住所・電話番号・高校名・メールアドレス等</p> <p>京都大学〇〇学部に入學を志願したいので、下記のとおり事前に相談を希望します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 志望する学部・学科，受験科目</li> <li>2. 障害等の種類，程度</li> <li>3. 受験上希望する配慮事項</li> <li>4. 修学上希望する配慮事項</li> <li>5. その他</li> <li>6. 添付書類             <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の診断書</li> <li>・大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書（写）（大学入試センターに申請し通知書が手元にある者）</li> <li>・身体障害者手帳（写）（交付を受けている者）</li> <li>・その他相談する際に必要と思われる参考資料</li> </ul> </li> </ol> |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

※ 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

## 【学部・学科紹介】

### ◇総合人間学部

#### (1) 学部設立の基本理念

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎えた、京都大学で最も新しい学部です。

新学部を「総合人間学部」と名づけた理由は、本学部の研究・教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからです。本学部では、心理や思想といった内面、あるいは身体面だけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てる、さまざまな学問を学ぶことができます。人間と人間をとりまく世界を総体的に捉えること、これが総合人間学部に与えられた課題なのです。

現代社会の危機を克服するためには、人間自身を最大のテーマとして取り上げなければなりません。そうしてこそ初めて人類生存の可能性や文明の可能性が求められるからです。このような根本的な問題の追究は、従来のような高度に専門化された研究だけでは不可能です。京都大学の自由の学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供することを、本学部はめざしています。

総合人間学部は、大学院人間・環境学研究科に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、時代の要請に適応できる1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間はどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系・主専攻を選択します。その際、「文系」または「理系」のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、本学部は副専攻の制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。卒業の際には、学士の学位記とは別に、主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

#### (2) 総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしとする学生、未知の分野・未踏の地を恐れず、限らない好奇心をもつことのできる学生、学を究めるためにはいかなる労苦をもいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることをできる学生、本学部はそういう学生が門をたたくことを望んでいます。

#### (3) 各学系の概要と教育内容

##### 人間科学系

科学技術の加速度的進展や情報化の高度な発展に伴って、人間をめぐる社会的・物質的環境は過去数十年の間に著しく変化しました。その変化に対応するかのようには、既存の人間に関する知では十分説明しきれないような、さまざまな人間行動や社会現象が生起するに至っています。本学系は、人間をめぐるこうした現代的状況を背景にし、また諸科学が蓄積してきた知を前提にしながら、人間についての全体的で根底的な理解の獲得をめざしています。この目的を実現していくための道筋としては、三つのものが考えられます。第一は、人間の諸活動の成果をもとに人間そのものについての思索を深化させていくという方向であり、第二は、人間を徹底して社会的文脈の中に置き、その中で人間についての知見を貯えていくという方向、そして第三は、文学を含む文化現象全般から人間についての理解に迫るという方向です。第一の方向は「思想」研究の方向と名づけるべきものであり、そこからは哲学や倫理学の伝統を前提にした人間存在についての思想的解明、あるいは造形芸術や演劇などの人間の創造行為全般についての思想的・歴史的研究がなされます。また第二の「社会」研究の方向からは、人間形成の諸過程・諸問題に関する実証的・理論的解明、あるいは人間の社会行動についての実証的・理論的研究が行われます。そして第三の「文化」研究の方向からは、文学作品を中心とした表現文化についての研究、さらには歴史学と社会学を踏まえた文化・文学・映画研究が行われます。「思想」「社会」「文化」の三つの方向は相互に有機的に関連し合って、「人間についての全体的で根底的な理解」という本学系の目的の実現をめざします。

抽象度の高い思考（「思想」）と社会的現実についての冷静な分析（「社会」）、それに文学を含む諸文

化現象への幅広い教養（「文化」）という三極構成の問題空間を系統的に学ぶことによって、人間についての深い洞察と理解をもった、これまでにないタイプの人材が輩出することが期待されます。こうした人材は、大学院、各種シンクタンク、教育界、公務員、家庭裁判所調査官、マスコミ関係、芸術関係、流通・広告業界など広い範囲で求められ、活躍することになるでしょう。

### 認知情報学系

脳・身体・言語・数理情報などに関する研究を通じて、人間および計算機の多様な創造世界に関する理解を深めることが、本学系の目標です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェースとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは、脳内の認知機構と運動制御機構の発現によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体としており、それを媒介する計算機の情報処理は、複雑な数理機構が関与しています。また脳の知的作業の最も昇華された世界が、数学的認識であるということができます。

本学系では、以下のようなことを学びます

- 1.ハードウェアおよびソフトウェアとしての脳の機能を、行動学的・認知科学的・神経科学的手法を用いて解明し、人間の知性と創造性の基本原理を理解すること。
- 2.高度な機械文明の発達による超運動不足やエネルギー摂取・消費のアンバランスや偏った食生活と遺伝的要因により発症する生活習慣病の生理学的・病理学的・運動科学的メカニズムを探求し、予防医学の発展に寄与すること。
- 3.計算機における情報の伝送・蓄積、制御や処理の過程を解析し情報処理の理論と機能を考究すること。
- 4.種々の現象の数学的モデルを構築し、それを数理科学の手法を用いて解析し、我々を取りまく世界の認識を深めること。
- 5.我々の認識を反映している自然言語・人工言語の構造と機能、生成と理解のプロセスを明らかにし、自然言語や形式言語のメカニズムとその背後の認知のメカニズムを解明すること。
- 6.外国語教育のための理論的研究を行い、効果的で効率的な外国語教育のための教材や学習支援システムを開発すること。

このように、本学系では、認知科学、行動制御学、身体機能論、情報科学、数理科学、言語科学や外国語教育論にいたるまでを総合的に学ぶことができます。その過程で、従来の理系・文系という枠を越えた幅広い探究能力と、人間の認識行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることをめざしています。

### 国際文明学系

西欧において発展した近代主義は、政治参加の大幅な拡大、経済的な繁栄、情報の利便化、世界の一体化などをもたらしました。その反面、例えば市場競争の文化・生活構造および人間の感性や価値観に対する影響、グローバル化と地方文化・生活文化との矛盾、深刻な環境問題など、複数の領域に及ぶ諸問題を生み出しています。

本学系では、近代主義について多面的な検討を加えることを念頭に、その現状に対して、政治論・経済論・法律論・社会論・科学論・メディア論・環境論などを領域横断的に相関させた分析を加えます。そして西洋史を通して、その歴史的背景を追求し、欧米文化の研究によって、近代主義の文化的表現の解明をめざします。また日本史を通して、近代主義受容以前の独自の歴史・文化を分析するとともに、いち早く近代化した日本のあり方を検討します。さらに、東アジア文化との対照を行うことで、近代主義の相対化をめざします。これらを通して、近代主義が生み出した諸問題を解決するにふさわしい、国際的で新たな文明の理念を構築することが、本学系の目的です。

学生は、現代社会に関する社会科学系諸分野と、日本・東洋・西洋の歴史・文化に関する諸分野の知識・方法論を総合的に修得することによって、既存の文系諸学部とは異なる学際的な教養と柔軟な思考の獲得をめざします。総合的な社会科学的思考方法を身につけた人材は、新しい学際的な研究分野を開拓しようとする大学院への進学や、民間企業をはじめ官庁・自治体、出版界、中・高教員、学芸員など、多彩な方面で求められるでしょう。

### 文化環境学系

世界の各地では長い歴史の過程の中で、地域特有の自然環境の影響を受けるとともに、特定の言語・宗教や社会・経済などの諸条件のもとに、固有の民族性や地域性が育まれてきました。これに加えて、とくに16

世紀以降、非西欧世界の諸文明は、世界化しようとする西欧文明との衝突と受容を通して、みずからの地域文明の特性を維持しながらも、伝統文化の苦悩に満ちた消長を経験してきました。

本学系は、近代文明のグローバル化が進展する現代にあって、各文明の地域的特性を多角的に比較しつつ、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を、多様な視点から解明することをめざします。

学生は、世界の諸文明の特質を比較対照しつつ、それらを相対化して捉える習慣を身につけます。同時に、文明社会の基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と将来的な意義についても理解を深めます。人間社会に対する基本的な理解とグローバルな視点を持ち、諸文明の交流を通時的かつ共時的に把握して、その交流現場に係りうる包摂的能力を備えた学生は、ジャーナリズム・メディア関連、地域計画関連、国際機関、図書館、博物館、官公庁、商社などの社会における主導的職種、あるいは複数の専門領域に通ずる学際性豊かな教育研究職にふさわしい人材となるでしょう。

## 自然科学系

階層構造をなす自然を理解し、自然と人間との共生関係を探究するためには、一見多様で複雑に見える地球環境や物質の構造・性質、そしてヒトを含めた生物・生命現象を物理学、物質科学、生物科学、地球科学的手法を用いて調べ、それらの成り立ちや物性・機能、そして変遷を明らかにすることが必要となります。さらに、その中に潜みそれらを支配している要因・基本原理を見いだし、お互いの相関関係を論理的、統合的に把握することが重要です。

本学系では、(1) 物質のもつ基本的性質を原子、分子、電子およびその集合体のレベルから理解し、それらの織りなす多様な物性現象や新奇現象の本質を解明するとともに、今日の科学技術の発展の基礎を修得し、物理学の新しい展開の方向を探究すること、(2) 様々な無機および有機物質と生体との相関を解明し、それらの機能と微視的構造を明らかにするとともに、化学反応の仕組みや制御法を研究して、優れた機能をもつ材料や目的物質を環境負荷なく創製するための基礎を養うこと、(3) DNAレベルから生態系レベルまで、各階層の生命現象と生物の機能をさぐり、また生物の多様性と進化ならびに様々な種間関係とそれらが織りなす生態系の仕組みを探究すること、(4) 自然界を構成する気圏・水圏・地圏の物質構成・構造や化学的・物理学的動態、地球・宇宙のダイナミクスを探究するとともに、宇宙の誕生から地球46億年の歴史を振り返り、地球環境の変遷とその仕組みを解明すること、さらに学系全体として、自然界の森羅万象を対象として、それらを統合的に理解することを目標とします。

学生は、自然科学の諸分野の基礎を系統的に学修するとともに、他の学系と連携して人間と自然との共生関係を探究するための総合的な自然観と物質観を養うことをめざします。

これらの学修を通して、基礎研究や環境問題などの総合科学に携わることのできる研究者や、科学行政官、博物館学芸員、科学ジャーナリスト、理科教育者等に要請される素養を身につけることができます。また、いずれかの専門を修める場合にも、既成の個別分野にとらわれない非境界的・流動的な新しい領域を開拓できる能力を培うことが期待されます。

## ◇文 学 部

### 文学部が望む学生像

1. 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる大学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めています。
2. 入学者選抜においては、以下の点が問われます。
  - (1) 総合的な基礎学力をもっていること。
  - (2) 過去から、現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みに関して、深い関心をもっていること。
  - (3) 高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力をもっていること。

### 文学部の教育内容

本学部は、明治39年（1906）9月、文科大学として創設、大正8年（1919）2月文学部と称されることになりました。文科大学開設の年、哲学科が、翌40年（1907）9月史学科、さらにその翌41年（1908）9月に文学科が設置され、45年（1912）5月までに当初の教育研究体制がほぼ整備されました。それ以後、時代の要求に応じて講座の拡充が行われてきましたが、平成4年（1992）4月より新たに文化行動学科が設置され、4学科、44講座、30専攻となりました。平成7年（1995）4月から4学科を廃止し、新たに人文学科1学科が設置されました。

人文学科設置にあたっては近年の人文科学のめざましい発展に即応するとともに、現在人類が共通にもつ様々な特性や、共通に抱える思想的、倫理的、文化的、科学的課題を基礎においた新しい人文学の構築を目指しました。この目的に沿って、より広い学問的視野に対応した哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6系と、その中に従来の専攻に相当する32の専修学問分野が設置されています。

志願者が入学前に専修の志望を決定することは難しいと思われますので、2回生でそれぞれの系に、次いで3回生からは各専修に分属します。各専修とも人間社会についての深い知識と理解を必要とすることから、語学はもちろん、諸学を広く勉学することが望まれます。3・4回生時は、本格的専門教育を行います。少人数の専門教育が原典に即して行われる場合が多くなります。また、各専修における高度の専門教育と並んで、人文学全体に対するより広い視野を養うため、それぞれの系を単位とした共通の講義も開講されます。卒業に際しては、演習指導をもとにして卒業論文を作成することが必要です。

卒業後の進路は、大学院へ進学する者のほか、教育関係、新聞社、放送局、出版社、官公庁、図書館、博物館、情報関係等、多方面にわたっています。

## ◇教 育 学 部

### (1) 教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければなりません。

そのため、教育学部では、教育と人間にかかわる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことで、心と人間と社会についての専門的な識見を養成し、さらに広い視野と異質なものへの理解、そして多面的で総合的な思考力と批判的な判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することによって、新しい種類の〈教育〉を創造し、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材の育成を目的としています。このような人材を育成するために、教育学部では、心と人間と社会について深い洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部では、平成27年度までに既に3,500名を超える卒業生を送り出しており、卒業後の進路は、公立学校、福祉関係、官公庁をはじめ製造業・金融保険業・商社等の一般企業や、新聞社・出版社・放送界等ジャーナリズム関係など多岐にわたっています。また、約3分の1の学生は、より高度な専門知識を身につけるため大学院に進学しています。

### (2) 教育学部の教育内容

教育学部は、戦後の学制改革に伴う新制大学の発足と同時に創設され、それ以来幾多の変遷を経て、平成10年度から教育科学科1学科に再編成されました。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。思想、歴史、制度、実践、発達、学習、心理、社会など多様な学問的観点から人間と教育についての総合的理解を得ることを重要視しています。

学生は、入学後の2年間は所属する「系」を特定せずに学習を進め、3回生進学時に「系」に分属します。1回生には、教育学部における研究の全体像を理解するための必修科目「教育研究入門Ⅰ・Ⅱ」、レポートや論文作成のために必要な技能を習得するための推奨科目「情報学Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。2回生になると専門的分化の流れをよりクリアにするために、さまざまな専門分野の講義・演習を履修します。そして、2回生の後期には3回生以降の専門領域を決定するためのオリエンテーションが開かれます。3回生以降は「現代教育基礎学系」・「教育心理学系」・「相関教育システム論系」の3つの系に分属して各専門領域の学習を進め、4回生では卒業論文を作成するためのさまざまな指導が少人数で行われます。

「現代教育基礎学系」では、教育の原理や方法、人間観や発達プロセスについての研究が行われています。具体的には、哲学、歴史学、教育方法学、心理学などに基礎を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより生涯発達、社会・文化など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っています。「教育心理学系」では、人間の認知や深層心理の研究を行うために、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心としたカリキュラムが組まれ、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成が行われています。「相関教育システム論系」では、社会や制度のなかでの教育を研究しています。教育と社会の結びつきを創造的に探究することを目的とし、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供しています。

このように、教育学部は、教育科学科1学科3系で構成されています。

## ◇法 学 部

### (1) 法学部が望む学生像

21世紀に入り、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴い様々な問題が生じています。こうした状況に対応して、世界の中での国家や社会のあり方を考え、これからの豊かな人間社会を構築していくためには、人間・社会・歴史に対する深い洞察力を基礎として、法律と政治の仕組みに関する専門的な知識を備え、社会全体を視野に入れながらそれらを組み合わせる構想力を有し、国家・社会についての制度設計や組織運営に指導的にかかわっていくことのできる人材の育成が不可欠となります。また、地球規模での交流が活発となっている今日、文化の多様性を尊重し、グローバルな視点のもとで法と政治、経済、社会の問題を捉え、人々の協調する平和な社会の実現に貢献できる国際感覚あふれた教養人が求められています。

法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、法学・政治学の基礎的・原理的知識を提供するとともに、国際感覚を養い、現代社会にふさわしい総合的な知見を修得させることを、教育目標としています。

このような目標のもと、法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる基礎的な学力を備え、論理的思考力にすぐれた学生を求めています。

本学部の卒業生は、裁判官、弁護士、検事、研究者、国家・地方公務員、国際機関職員として、また、金融機関、商社、マスコミ関係など、多方面で活躍しています。法科大学院（いわゆるロースクール）制度の発足後は、法学部を卒業し、法科大学院を経て法曹界で活躍する人が多数出ています。

### (2) 法学部の教育内容

法学部の専門教育には、学科制やコース制を設けず、専門科目の履修についても必修科目を設けていないところに、特徴があります。これは、学生の自主性を尊重し、みずから問題を発見し、みずから学ぶ姿勢を重視しているからです。授業は、短期に集中した学習ができるよう、原則として半年で完結する前期・後期制のもとでおこなわれています。また、法学・政治学を体系的・段階的に学ぶための指針として、入門科目である1回生担当科目、2・3回生担当科目、2・3・4回生担当科目および3・4回生担当科目を示し、4年一貫の学年配当を実施しています。そのうえで、各学期において登録できる専門科目の単位数に上限を設けることで（いわゆるキャップ制）、学生に対して専門科目についての堅実な学習を促しています。

講義は、毎年必ず実施される基本的科目に加えて、年度ごとに種々の特別講義を開講し、社会の変動に伴って生じる新しい法現象・政治現象や企業活動において現に行われている法実務などに積極的に対応しています。また、個々の学生がそれぞれの関心に沿って隣接科学と連携した学習を深めることができるよう、法や政治とかかわりの深い経済学部などの科目は相当数を受講できるようにしているほか、その他の学部の科目も、必要な要件を充たせば卒業単位に算入することを認めています。

また、法学部では、外国語の専門書に親しむ機会を提供し、基礎的な読解能力を養うため、教養科目の英語において、2回生について外国文献講読（法・英）を必修科目とし、また専門科目においても、英語・フランス語・ドイツ語の外国文献研究（任意選択）を3回生以上に配当しています。

さらに、法学部では、少人数教育を重視する視点から、1回生に、教養科目として、文献の調査・講読、報告、討論などの基礎的手法を学ぶ「法学部基礎演習」、3・4回生に、専門科目として、学生が主体となって報告と討論を行う「演習」（ゼミナール）の各科目を設けています。「演習」は、法学・政治学の多様な領域を対象として数多く開講され、学生のほとんどが参加し、積極的な学習の場になっています。



## ◇経済学部

### (1) 経済学部教育理念等

#### 教育理念

自学自習による卓越した知の継承をはかり、創造性を涵養するという京都大学の理念に照らして、現代経済社会の多面的な課題に専門的知識をもって挑戦する人材、地球社会の調和ある共存に貢献する人材、豊かな人間愛と人権感覚を備え、公正を求める廉潔な心情をもった人材を育成することが、京都大学経済学部の教育理念です。

#### 教育目標

この教育理念を実現するために、京都大学経済学部では以下の目標を掲げ、その遂行・達成に取り組みます。

1. 多様な入試を通じて、多彩な個性、文化的背景を持つ学生を集め、経済・経営に関する柔軟かつ多様な視点と能力を持つ学士を育成し、社会の広い分野に供給します。
2. 経済学・経営学についての幅広い基礎的な学問を修得させると共に、柔軟な思考力と創造性を養うために多面的なカリキュラムを整備して教育にあたり、演習を重視して個人指導および集団学習をおこないます。
3. 世界最先端の経済学・経営学の研究成果を用いて、経済学研究科と連携しながら、高度な専門教育の充実をはかります。
4. 政府機関や企業、非営利団体等との研究教育パートナーシップを通じて、経済・経営に関する高度で実践的な能力の開発をはかります。
5. 経済のグローバル化のもとで、持続的経済発展に貢献できる国際的な能力を持つ人材の育成につとめます。
6. こうした教育活動の全体を通じて、時代の進展に対応した基礎的・専門的学力を備えさせるとともに、豊かな人間愛、人権感覚を備え、公正を求める廉潔な姿勢をもった人材の育成につとめます。

#### アドミッション・ポリシー（経済学部が望む学生像）

1. 経済学の研究対象である経済活動は、人間が生きていくためにもっとも基本的なものです。私たちが毎日生活しているのは、多くの人々が日々経済活動を営んでいるからこそ可能となっているのです。しかしその経済活動は決して単純なものではなく、産業空洞化、雇用問題、財政赤字、少子高齢化、エネルギー環境問題など、私たちが解決すべき経済問題が、次々と新たに発生し、複雑性を増しています。
2. このような状況を前にして、経済学の課題を解決するためには、どのような事態になっても対応できる柔軟な思考力と創造性を備えることが重要であると私たちは考えています。
3. 本学部は、大正8(1919)年に創設された、日本でもっとも古い伝統を誇る経済学部のひとつですが、この長い歴史を通じて、基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の激動に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することを目標としてきました。
4. そして現に経済学部は、学界、官界、産業界などで、このような能力を持つ多くの人材を輩出してきたと自負し、またそのような評価も受けています。私たちは、このような京都大学経済学部の良き伝統を継承し、そこに新たな歴史の一ページを刻み込む強い意欲を持つ学生諸君が門を叩いてくれることを望みます。
5. 多様な背景をもつ学生を受け入れるため、本学部では、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施します。これら3種類の入試すべてで、高等学校までに十分な基礎的学力を身につけることを求めています。とくに理系入試においては、数理的能力を重視した選抜を行います。また特色入試では総合的な学力とともに自学自習の能力を重視した選抜を行います。その他にも、留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供します。

### (2) 経済学部の教育内容

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経営経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっていきます。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱと年次配当によって階層化されています。

理系入試と論文入試の変更などの入試改革がおこなわれた平成21年度からは、入学したばかりの学生が、経済学部生としての基礎知識を身につけ、自立した学習力をつけさせるための「入門演習」を開設しました。新入生は最初の学年から、全学共通科目によって語学学習や教養学習をおこなうだけでなく、「入門演習」

と9つの入門科目（ミクロ経済学入門，マクロ経済学入門，社会経済学入門，基礎統計学，経済史・思想史入門，現代経済事情，経営学入門，会計学入門，情報処理入門）によって，経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。2回生になると「専門科目Ⅰ」の授業群，3回生になると「専門科目Ⅱ」の授業群が取れるようになります。

3回生以上になると，経済学・経営学の専門科目だけでなく，法学部が提供する法学や政治学の科目もとれるようになります。また，高度な学習を求める学生には，大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

経済学部では伝統的に演習（ゼミナール）制度を重視し，少人数の学生と担当教員による対話を基本にした学習システムが存在します。2年次以降の演習（ゼミナール）は専門演習で，各教員が特定テーマを掲げ毎年各学年10名以内のゼミ生を募集して指導します。ゼミナール参加者は4回生の終わりに卒業論文を提出することができます。ゼミナールは，学生が教員から指導を受けるだけでなく，ゼミ仲間の学生同士の切磋琢磨，上回生や大学院生によるガイドによって，学問的・人間的に成長できる場であり，卒業後にもゼミ単位のネットワークが維持されるのが通例です。

## ◇理 学 部

### 理学部の教育理念

#### 教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

#### 教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

#### 望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・高等学校の教育課程の修得により培われる十分な科学的素養，論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

理学は、自然現象を支配する原理や法則を探究する学問です。その活動の長い歴史を通じて、人類の知的資産としての文化のより深い発展に大きな役割を果たしてきました。また、理学は人類全体の生活の向上と福祉に貢献することを目的としております。

京都大学理学部は、自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にしてきました。この気風が、新しい学問分野の創造に重要な役割を果たしてきました。その一端は、卒業生の中から4名のノーベル賞受賞者と2名のフィールズ賞受賞者を出したことからも窺えます。この学風を継承しつつ、京都大学理学部は広く開かれた教育・研究機関として発展しています。

京都大学理学部は、上に掲げた教育理念を実現するために、理学科のみの1学科制をとっています。それは、学年とともに緩やかに専門化を進めることによって、学生諸君が自分に最も適切な専門分野を、自分自身の学修を通して見い出せるようにするためです。入学試験の呪縛から解き放たれて、高校時代に興味を抱いた学問分野に深く踏み込んでいくことを是非やってみてください。あるいは、大学入学後に、高校で履修しなかった分野に対する興味を持つようになる場合もあるでしょう。そういった場合にも対応できるように、みなさんにとっての新しい分野との出会いのための講義も用意されています。その一方で自律的学修の姿勢を養うため、少人数対話型教育が充実されていると共に、学生による自主ゼミ等の勉強活動を積極的に支援する体制が整えられています。そして、相応しい分野を見出した人が、講義と教科書の世界から飛び出して、フィールドや実験の実習を通して、あるいは紙と鉛筆を手し、自らの手足を動かし脳みそを振り絞ることで、学問に対する情熱をより一層沸き立たせられるようカリキュラムが工夫されています。このようにして、学生諸君が自ら体系的な基礎学力と技術を習得しつつ、学年の進行とともにその専門化の程度を進め、最終的にはその研究分野の最前線に近づくことを目指します。

このように組まれたカリキュラムによる学修により、自己の世界を広げ、自己の相対化ができ、自然に対して謙虚な探求的態度を維持しつつ、理学の方法を問題の発見と解決に適用できる存在となる基盤が獲得されます。卒業後は、その基盤に立って、研究者として、あるいは責任ある職業人として活躍し、新たな知的価値を創出することを切望します。

### 理学部の概要

明治30年に京都帝国大学理工科大学の中核として創設されて以来、現在まで一貫して、出来るだけ視野の広い教育を授け、自由にして独創性に富む気風を育てることを理想としています。

本学部は全体で理学科1学科の構成で、多岐にわたる研究教育が行われています。志願者が、将来専攻する分野を出願時に決定することは難しいと思われますので、入学後、各人が学びながら最適な道を探して、専門化を徐々に進めていくことを期待しています。理学部の科目は一般教育科目、専門基礎科目、専門科目の三つに分類されています。4年間の学修期間のうち1・2年次で主として一般教育科目と専門基礎科目を広く履修します。専門基礎科目の中には、理学部における専門分野及び関連する学際的領域の研究の最先端や将来の展望について分かりやすく解説するオムニバス形式の講義も用意されています。

3・4年次においては主として専門科目を履修します。2年次の終わりに数理科学系、物理科学系、地球惑星科学系、化学系、生物科学系の五つの系のいずれかひとつに登録して専門化を進めます。ひとつの専門分野とその関連分野を重点的に学習し、最終的にはその研究の一端に触れることができることを目指しています。

4年次の学修科目の卒業研究は系毎に、数学講究（数学）、物理科学課題研究（物理学、宇宙物理学）、地球惑星科学課題研究（地球物理学、地質学・鉱物学）、化学課題研究（化学）と生物科学課題研究（動物学、植物学、生物物理学）があります。これらは特定のテーマを通じて各専門分野の研究に触れる極めて重要な

科目であり、少なくとも一つのテーマを選択して履修しなければなりません。

研究者的な資質を育む教育理念に明らかなように、卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えます。大学卒業後、民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。

## ◎各系の概要

### 数理科学系

理学部における数学の教育課程は、理学部学生全体を対象にするもの、数学を必要とする専門分野へ進むとする学生を対象とするもの、数学を中心として学ぶ数理科学系の学生を対象とするものの3つに大別されます。

1年次には、全学共通教育として、微分積分学および線形代数学を学びます。これらは、理学部の全学生向けのものであり、高校までの数学を深めて理論的な基礎を固めると同時に、幅広く発展させるものです。

2年次には、ベクトル解析、常微分方程式、ジョルダン標準形、集合と位相、複素函数論、群論、ユークリッド空間に埋め込まれた多様体の幾何学などの講義や演習、また数値計算の基礎や非線形数学といった数学の応用に関する授業があります。このうちベクトル解析、常微分方程式や複素函数論は、数理科学系だけでなく、物理科学系など、将来専門に進んでも数学を必要とする学生にも強く推奨される科目です。

3年次では数理科学系の学生を主な対象として、代数学では環論、体論、幾何学では多様体論、位相幾何、解析学ではルベーグ積分、フーリエ解析、函数解析などの基本的な事柄を学ぶ科目を中心に、各分野で専門的な講義と演習が用意されています。また数値解析学や計算機科学の基礎、確率統計の重要な応用である保険数学の講義も開かれています。3年次までのカリキュラムを終えれば、知識としての数学の基礎付けができ、幅広い分野の概観が得られるものと考えられます。

4年次では卒業研究科目である「数学講究」を中心として学習することになります。各講究は5名までの少人数で主としてセミナー形式で行われ、数理科学系の学生はどれかの数学講究に所属して、教員の個人指導によって、数学のより専門的なテーマを深く学ぶことになります。

数理科学系の卒業生の大部分は大学院に進学します。特に進んだ学生の中には、3年次修了段階で大学院へ進学するものもあります。

### 物理科学系

物理科学系は、物理学と宇宙物理学の専門分野に大きく二つに分かれます。そして物理学の専門分野は物性物理の分野と原子核・素粒子・宇宙の物理の分野に更に分けられます。

金属、半導体、磁性体、超伝導体等の固体をはじめ、液体、流体、プラズマ、ソフトマター、生体にいたる物質の多彩な姿は原子分子の集合体が示す種々な相です。様々な条件の下でそれらを制御し、それらの性質の解明をめざす物性物理の分野は、現代文明を支える最も基礎的な学問分野の一つといえます。そこではミクロの世界を探索するための高度な実験手段や種々の数値的方法の開発を通して、物質の新しい様相が次々に明らかにされつつあります。また、レーザー等により高精度に制御された原子や極低温下における原子や固体は量子力学が支配する世界であり、そこで織り成す様々な現象は現代物理学の宝庫です。更に、非平衡条件下における自己組織化現象の解明等は生命科学ともつながる学際的分野を構成しています。

原子核・素粒子・宇宙の物理の分野では、原子よりも小さい極微の物質世界についての様々な現象や法則を研究するとともに、そのような極微の世界についての知識に基づいて、宇宙という極大の世界の構造や現象を研究しています。理論的な研究とともに、原子核・素粒子の極微世界の研究では加速器等を用いて、また宇宙の物理の研究では宇宙放射線の観測を行うなどの実験的研究が行われます。実験的研究の多くは巨大科学となっていますが、学部教育ではその基本を理解し基礎技術を身につけます。

宇宙物理学の分野では、太陽、恒星、惑星系、星間空間、銀河系、銀河から宇宙の大規模構造にわたるまで、様々な階層の天体の観測とそれに関する理論の研究を行っています。宇宙物理学の分野の特徴である個々の天体現象の解明とともに、宇宙を支配する法則や宇宙進化の研究も行われています。

3年次に入ると、講義等の他に、課題演習、4年次では課題研究（卒業研究）があります。これは上記の分野から代表的なテーマを選んで、教員・学生がいくつかの小グループを作り、セミナー・観測・計算等を織りまぜて実習形式の教育を行うものです。課題演習では研究の先端を意識した基礎的テーマの学習を、課題研究では学生個人が研究そのものに部分的に触れることを目指しています。

### 地球惑星科学系

この学系には、地球物理学分野と地質学・鉱物学分野があります。地球物理学分野では、固体地球物理学として、地球の形状・重力の測定および地殻の変動などを調べる測地学、活断層や地震断層などに関連した地

殻運動を明らかにする活構造学，地震波の観測や解析，地震の発生機構や地球の内部構造を調べる地震学があります。水圏地球物理学として，海洋と陸域の水循環過程とそのメカニズムを明らかにする，海洋物理学や陸水学があり，大気圏物理学としては，大気の大循環を把握し，その力学を解き明かす気象学，長期間の気候変動や気候システムを解明する物理気候学があります。また，地球・惑星の電磁氣的性質，超高層大気・磁気圏・惑星間空間の構造と変動を調べる地球電磁気学・太陽惑星系物理学があります。地質学・鉱物学分野では，1) 地球・惑星を構成する物質の物質科学的研究，2) 地殻のテクトニクスと地球のより深部での過程との関連，3) 地球表層部での生物圏とそれを取りまく水圏・気圏・宇宙環境の相互作用の歴史などを主なテーマとした教育と研究を行っています。

両分野とも徐々に専門化するような幅広いカリキュラムが組まれており，3年次には授業以外にも野外での調査実習や，各種の実験機器を用いた室内実験や計算機を用いた数値実験を経験しながら，やがて4年次では具体的なテーマについて卒業研究が行えるようになっていきます。このような教育や研究を通じて，地球や地球外の惑星などの生成・進化の過程を生き生きと感ずることのできる人材の育成を目指しています。

## 化学系

現在，化学は，「物質の状態，性質及びその変化」の研究という共通点で結ばれた，多様性に富む物質科学の一分野を形成しています。いいかえると，化学は，原子，分子，生命から宇宙に至る，この自然界に存在するあらゆる物質をその研究対象とする学問分野です。そのため，化学系を専攻することは，物理科学系，地球惑星科学系，生物科学系と複合する領域を含む，広範囲にわたる学問分野を専攻することを意味します。このことを踏まえて，この系では広い視野をもって，物質科学の基礎となる知識を身につけさせることを，最優先の目標として学部教育を行っています。したがって，化学系を専攻する上で，他の系と異なる大きな特徴は，理論から実験のコースまでを含む物質科学の幅広い学習により，将来，どのような関連分野の研究を行う際にも望ましい，バランスのとれた基礎学力を身につけることができる点にあります。

具体的には，まず3年次で主として基礎的な科目群を履修します。この科目群は物質科学における基本的知識の修得と，実践を通じてのその本質の理解という2点を考慮し，量子化学，物理化学，無機化学，分析化学，有機化学，生物化学の各科目と，それらの演習，実験のコースから構成されています。また基礎的な科目群とは別に，理論・物理化学，無機・物性化学，有機化学，生化学・分子生物学などのさまざまな分野にわたる，アドバンストコースとしての専門科目群が用意されています。3年次から4年次にかけて，各人の研究分野への興味に応じ，これらの専門科目を複数選択，履修し，基礎科目群の履修と並行してゆるやかに専門化を進めます。さらに，4年次では理論系や実験系の研究室の一つに所属し，スタッフの直接の指導のもと，実験などを通じて物質科学における思考や研究の方法を学び，先端の研究に触れられるよう配慮されています。

## 生物科学系

生物科学は，生命現象を様々な角度から研究し，理解しようとする学問体系です。生物科学系には動物学，植物学，生物物理学の3つの専門分野があり，そうした広範な学問体系を理解しやすいように教育的配慮がなされています。

動物学では，動物系統学，動物行動学，動物生態学，動物発生学，環境応答遺伝子学の他に，人類の起源と進化と多様性に関する人類学の講義が行われています。植物学では，植物系統分類学，植物生理学，植物分子生物学，植物分子遺伝学などの講義が行われています。また，講義内容の理解を助けるために講義に沿った実習があります。さらに，臨海実習・野外実習などがあり，フィールドに出て実際の生物に触れながら学べるように配慮されています。生物物理学は，核酸やタンパク質や脂質などの分子の構造と機能及び細胞の構造と機能をもとに生命現象を理解しようとするもので，そのために分子生物学，分子遺伝学，構造生物学，細胞生物学，分子情報学などの講義があります。また，脳・神経系のはたらきを分子・細胞レベルで理解するための講義もあります。

このように専門課程では，さまざまな分野をカバーするように講義や実習が用意されているので，各人の興味に応じていろいろな分野の講義を受けることができます。また，4年次のために各人の興味に応じて23の研究グループの中から一つを選ぶ生物科学課題研究があり，各学生が研究室に配属されます。教員や大学院生の直接の指導のもとに，生物科学の実験を通して研究を体験しながら生物科学の理解を一層深めることができます。

生物科学系では，各人の興味に応じた適度な専門化と，また同時に専門分野にとらわれない，幅広い知識と能力を持った人材の育成を目標にした教育を行っています。

## ◇医 学 部

### 医学部が望む学生像

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているのです。自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

### ◎医学科

医学部・医学科の教育のあらまし

本学科の修業年限は6年です。入学当初より、医療に対する関心をはぐくむ取組に参加するとともに、研究に対する関心を育てる取組も提示され、さまざまな体験を通じて将来のキャリアを見すえた視点を構築します。また、主として最初の2年間に、全学共通科目の履修が求められ、各学部の枠を越えて開講される授業に参加することができます。全学共通科目の中でも、修得すべき単位数が定められているほか、将来の必要性を考慮して重点的に履修を求められる科目があります。所定の単位を修得すると3年生への進学が認められます。

専門基礎科目は、レベル教科として2年生から履修がはじまります。レベル教科とは、生体の構成要素を分子、細胞、組織などのレベルに分け、体系的に学習するものです。レベル教科を修得したのち、専門臨床科目としてシステム教科を履修します。システム教科とは、人体を呼吸器系、循環器系、消化器系、血液免疫系、内分泌・代謝系、脳神経系、運動骨格系、皮膚結合組織系、感覚器系、泌尿器・腎臓系、生殖系などといったシステムに分け、それぞれの病態に関して臨床的な視点から学ぶものです。このような枠組みに入りにくい教科も、有機的にレベル、システム教科の中に組み入れて、専門科目としてのカリキュラムを充実させています。健康と社会・環境との関係を公衆衛生の視点から学ぶ社会健康医学系の学習もその一つです。4年生の時点で、これらの科目の履修をすべて修了し、臨床入門実習を履修して医療系大学間共用試験に合格した学生は、臨床実習に進むことができます。5年生春から6年生秋までの間、診療の現場において臨床実習が始まります。本学は、地域の医療を担うレベルの高い医療機関と人事交流があり、こうした医療機関の指導医のもとでも、附属病院のみならず、第一線の医療を学びます。

本学科では、自分自身の将来のキャリアを形成するため、継続的な取組を行っています。実際の医療がどのように行われているか、その際のチーム医療の重要性を入学後、早い時期から体験することは、自分自身の医療専門職としての将来を見つめる上で重要であり、医療者としての適性をみつめ素養をつけることを学生に求めています。たとえば、1年生には、人間健康科学科・薬学部薬学科の学生と、学外の病院で実習を行っています。また、2年生では、臨床・基礎・社会健康系の医師にキャリアインタビューを行う活動をし

ます。また、医療に関する体験だけでなく、研究に対する関心を開拓する取組も学生に提供されます。1回生からラボ・ローテーションで研究室訪問を行うことができます。学生時代から継続的に研究する学生も少なくなく、各研究室は広く門戸を開いています。こうした積み重ねを経て、4回生のマイコースプログラムでは、主として研究面で学生の自発的な取組を実践するカリキュラムが設けられています。研究への志向が明確な学生に対しては6年の卒業を待たずに、大学院に進学するMD-PhDコースも設けられています。このコースは、6年制医学部に大学院博士課程（3-4年）を組み込み、卒業時には医学士（MD）に加えて医学博士（PhD）を得ることができるものです。

卒業後は、専攻する進路によって異なりますが、多くの卒業生が医師免許取得後、2年間の卒後臨床研修を行います。また、臨床医として修練を積む過程で、研究に携わることは重要で、一定の臨床経験の後、大学院に進学する卒業生が数多くいます。また基礎医学を専攻し研究を志して、卒業後ただちに大学院に進学する卒業生もいます。このように本学は、学部学生のための教育機関というだけでなく、大学院大学としての機能も充実しており、大学院学生として水準の高い研究、教育の機会をえることができます。本学の多くの卒業生が医師、研究者、教育者、あるいは医療行政官として我が国の医学界で指導的な役割をはたしています。

## ◎人間健康科学科

医学部・人間健康科学科の教育のあらまし

人間健康科学科は先端看護科学コース、総合医療科学コース、先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座、作業療法学講座）の3コースより構成されています。修業年限は4年でその間に全学共通科目、専門基礎科目、専門科目を履修します。いずれの専攻も初めの2年間は主に全学共通科目を履修し幅広い教養を身に付けます。全学共通科目と平行して2回生からは専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は3コースともに共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なものです。2回生後期より以下に説明してあるような各コース別の専門科目の履修が始まります。3回生には病院などにおける臨床実習、そして4回生では卒業研究などを行います。指定された単位を修得し卒業したものにはそれぞれ看護師、保健師（選択制）、臨床検査技師（選択制）、理学療法士、作業療法士などの国家試験受験資格が与えられます。

将来優れた医療専門職や研究者となることを目標とした教育システムを準備しています。まず入学当初より専門科目の一部を履修する教育方法、いわゆるアーリー・エクスポージャーを行います。また自学自習を基本とした問題解決型授業を行います。さらに3コースの学生が合同で学ぶことにより、将来のチーム医療に臨む基盤を育てます。

以上のような教育を効果的に行うために教育設備を充実し、学生と教員の交流を高めるような様々なアイデアを用意しています。

## 先端看護科学コース

看護学は、個人、家族、地域を対象に、健康の回復・保持・増進、疾病の予防に至るあらゆる健康レベルの人々を支援する実践の科学です。看護を志す者は、生命に対する尊厳を基盤とした深い人間愛と高い倫理性を備え、対象となる人々の生きる力を引き出し、自立を助け、身体的・精神的・社会的側面から全人的なケアを行うことのできる能力が必要です。

そこで先端看護科学コースでは、このような健康科学に関連した4つの講座を設け、看護学の基礎教育を行います。まず基礎看護学講座では、人間が基本的にもっている健康に対する営みやその対処行動についてのエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や支援の方法を教授します。また臨床看護学講座では、主として成人期にある人々が遭遇する心身の健康問題を、急性期から慢性に至る各疾患経過から捉えてアセスメントし、人々が健康を維持・回復できるように支援する知識と技術を教授します。

家族看護学講座では、女性・母性・小児及びその家族が遭遇する健康問題や、夫婦が自立して次世代を生き育て、健全な家族を形成できるように支援する知識と技術を教授します。

地域看護学講座では、個人や家族はもちろんのこと、地域が抱える様々な健康問題や、少子高齢社会において看護職として専門的な機能を発揮できるような知識と技術を教授します。

各講座では、以上のような学部教育を踏まえ、将来、専門看護師として高度な医療や健康問題に対応することができるように、大学院の教育も視野に入れた教育を行います。

## 総合医療科学コース

総合医療科学は、医療現場での診断・治療・予防に不可欠な科学であり、今後も新しい検査技術・医療機器の開発、医療情報の統合に大きく貢献することが期待されています。そのためには幅広い基礎知識、応用力、探求心はもちろんのこと医療人にふさわしい人間性が求められます。そこで、本コースでは3つの講座を設け、前記のような人材育成を目指した教育を行います。

生命・基礎医科学講座では、生命の基本原理を知り、疾患の原因や治療、予後予測に必要な不可欠な生体情報を多角的に解析するために必要な理論や技術を教授します。また、移植・再生医療、遺伝子治療を始めとする先端科学を臨床へ展開するための基盤となる理論や技術について教授します。

臨床医科学講座では、iPS再生医療を始めとする先端医学を臨床へ展開する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教授します。また、医療ビッグデータの活用によってゲノム医療に基づく個別化医療を開発する新しい分野の人材育成も行います。

医療理工科学講座では、先進医療を支える生体医療情報解析や医療画像診断技術の進歩のために必要となる情報理工学的理論や技術について教授し、先端医療機器システムや医療・介護支援技術の開発など、医学・医療に関わる様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

以上のように総合医療科学コースでは、新しい時代の流れに対応できる知識と高度な技術を持った臨床検査技師を育成するとともに、この分野の教育・研究の発展を担う人材を育成することを基本とした教育を行います。

## 先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座）

理学療法学は、日常生活に必要な基本的動作能力を維持改善し、社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を活用する実践科学といえます。

理学療法学講座の教育目標のひとつは、科学的な根拠のある医療（Evidence Based Medicine：EBM）に基づいた判断と、個々の条件への柔軟な対応能力の両方を有する理学療法士を育てることにあります。また、当講座の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されるところです。

当講座では新しい治療法の開発を目指した基礎研究、運動機能の系統的分析と定量的評価法の確立、運動機能の改善や障害の軽減、高齢化に付随する諸問題に対する予防・維持法などの幅広い領域で研究活動を行っており、この分野の研究で日本のリーダーといえる存在です。学生は4年次の卒業研究で、その一端に参加します。

また、当講座では大学院修士課程、博士後期課程が併設されています。熱意ある学生が学部卒業後直接、あるいは理学療法士として現場での臨床経験を積んだ上で問題意識を持って大学院に進学し、先端医療技術の開発に貢献する世界レベルの研究者に育ってほしいと思います。また、その他にも医療機関や、保健・行政機関、教育機関など幅広い分野でリーダーとして活躍することが期待されます。

## 先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）

作業療法学では、豊かな人間性と幅広い視野を持ち、トータルなリハビリテーションマネジメントができる高度な援助技術を身につけ、急性期から維持期まで一貫した作業療法の実践と教育・研究を担う人材を養うため以下のような内容で教育に臨みます。

身体障害・精神障害・発達障害の領域における作業治療学等を通し、残存機能を最大限に開発する為に必要な作業療法の知識と技術を身につけます。また既存の知識・情報で対応困難な問題点を確認し解決していくことができる思考力が養えるよう教授します。

また評価学や作業分析学、高次神経機能適応学等を通し、対象者の備えている現存機能を活用し最大限の自律生活が送れるように援助する為に必要な作業療法の知識と技術を身につけます。その援助の効果を常に念頭において臨床に従事する姿勢が養えるよう教授します。



## ◇薬学部

### 薬学部が望む学生像

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としています。そのため、京都大学薬学部においては、薬学の基礎体系を習得して、創薬、医療薬学に関わる科学者、高度な先端医療を担うことを目指す人材を求めています。

### 薬科学科

薬科学科の修業年限は4年であり、その主たる使命は医薬品の創製に関わる科学者となる人材を育成することにあります。薬科学は生命の営み、疾病の原理の解明に基づき、新たな医薬品の創製、薬物治療法を開発することを目指しています。このような薬科学を行うには、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要であり、自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

### 薬学科

薬学科の修業年限は6年であり、その主たる使命は最適な薬物治療を実現する科学者、指導的薬剤師となる人材を育成することにあります。医療の進歩と発展を担い、医療薬学研究者、高度な先端医療を担う指導的薬剤師を目指すために、豊かな科学的思考力、人類の健康増進に貢献することに対する強い意志と情熱、医療人としての適正な倫理性を持つことが必要であり、そのための向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

### 薬学部の教育内容

#### 薬科学科

4年制の薬科学科では、薬学の基礎となる自然科学の諸学問（有機化学、物理化学、生物化学等）と薬学固有の学問（医薬品化学、薬理学、薬剤学、衛生薬学等）に関する基礎知識と技術を学び、薬学研究に対する知的好奇心の涵養を通じて、大学院を経て将来研究者その他多様な領域で活躍する社会人となるために必要な基本的素養の向上を目標にします。1年次には全学共通科目での教養教育と薬学部提供の全学共通科目を中心にして、さらに薬学者の社会における貢献を知るための薬学倫理・概論など特色ある科目を学習します。2年次からは専門科目が導入され、新しい演習科目によって自発的に考える学習を行います。3年次には午前中に講義、午後には通年にわたる専門実習を行い、創薬研究のコアとなる知識と技能の基盤を形成します。さらに4年次には研究室配属による特別実習を行い、与えられた研究テーマを遂行することにより研究者としての基本を体得します。

#### 薬学科

6年制の薬学科では、医療人に求められる教養教育に加え、薬学の基盤である自然科学各分野と薬学固有の学問に関する知識と技術を網羅的に学び、さらに薬剤師職能の基礎となる臨床薬学知識、職業倫理の涵養を通じて、将来医療の指導者になりうることを目標にします。1年次から3年次までは基本的に薬科学科と同一のカリキュラムによって進行し、薬科学の基礎をしっかりと身につけます。4年次においては医療系科目を中心に履修し、同時に演習や少人数のチュートリアル科目などによって医療薬学を十分に時間を割いて学びます。4年次終了時には共用試験によって実務実習に必要なコアカリキュラムの到達度が判定されます。5、6年次においては、実務実習事前学習、病院実習、薬局実習を行い、医療薬学の技能や態度を十分に磨き上げます。また、研究室において特別実習および演習を行い、与えられた研究テーマを自ら考えながら遂行することにより研究者としての基本を体得します。薬学科卒業生には薬剤師国家試験の受験資格が与えられます。

## ◇工 学 部

### 工学部の理念と歴史

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の永続的な発展や文化の創造などの問題についても責任を持って対応しなければならない立場にあります。京都大学工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりと基礎学力と高度の専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材の育成を目標にしています。

また、研究においても基礎を重視するという姿勢でのぞんでいます。自然環境と調和のとれた科学技術の発展ということにもつねに注意をはらっています。

ここで京都大学工学部の歴史を少し紹介しておきましょう。京都大学工学部は明治30年（1897）に京都帝国大学理工科大学として土木工学科、機械工学科で出発しました。その翌年には電気工学科、製造化学科および採鉱冶金学科が、また大正9年（1920）には建築学科が開設されました。以来様々な整備拡充が行われ、平成8年（1996）に現在の6学科、すなわち、地球工学科、建築学科、物理工学科、電気電子工学科、情報学科、及び工業化学科に再編されました。

### 教育方針

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、先に述べたように「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」といいますと、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

教育内容をもう少し詳しく説明しておきます。京都大学工学部へ入学すると、1～2回生で、一般的な教養教育、英語他の外国語教育、理系全般に共通の基礎教育を受けます。また、それぞれの学科・コース特有の専門教育も1回生から始まり、しだいにその重みを増していきます。4回生になると、特別研究という科目で学生1人1人が特定のテーマに取り組みます。特別研究では、学生は希望の研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、指導教員・大学院生と一緒に研究が出来るようになっています。学部卒業後、大学院へ進学すれば、より高度な専門教育と研究指導を受けられます。これまで、京都大学工学部は、上のような教育を通して、幅広い応用能力、まったく新しい未知なる課題へ敢然と取り組む自主性・創造性、および豊かな教養と厳しい倫理観を備えた卒業生を輩出してきました。

### 望ましい学生像

このような教育を受けていただくために、次のような入学者を求めています。

- (1) 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- (2) 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- (3) 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

以下、各学科の内容を、詳しく紹介します。

### ◎地球工学科

#### (1) 地球工学科が望む学生像

「住みやすく豊かな都市と地域」、「安全に暮らせる国土」、「資源・エネルギーを基礎とした持続的文明」、「環境に配慮した地球社会」を築いていくために、広く社会に役立つ「土木工学」、「資源工学」、「環境工学」を学びたい人を求めています。社会に貢献するための科学技術を学びたい人、多様な技術を集約して問題の解決をしたい人、官・民・学の広い範囲から就職先を考えたい人、国際的に活躍したい人に最適な学科です。

#### (2) 地球工学科の紹介

20世紀には、科学技術が急速に発達し、先進諸国において豊かな社会が実現する一方、資源の大量消費や

環境汚染問題が顕在化してきました。また、開発途上国における人口の急増と貧困問題も残されたままになっています。地球工学は、このような現状のもとで21世紀における地球規模での人類の持続可能な発展を目的とする学問分野です。このため、地球工学科では、地球空間における生活と産業のための社会基盤整備、地下資源の探査と開発、人の健康の保護と生活や環境、資源の保全などについての基礎理論とその工学的応用について総合的な視点から教育と研究を行います。

地球工学科は、日本で最も充実した大学院の教育研究組織で構成されています。すなわち工学研究科の社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻及び都市環境工学専攻と連携するとともに、工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター、エネルギー科学研究科のエネルギー応用科学専攻及びエネルギー社会・環境科学専攻、地球環境学舎環境マネジメント専攻、情報学研究科社会情報学専攻や経営管理大学院とも連携しています。また、防災研究所、原子炉実験所、環境科学センターなどの協力の下に、教育・研究を進める体制となっています。

地球工学科が対象とする科学技術の領域はきわめて多岐にわたります。具体的には、①全地球・地域現象の観測・解析とその情報分析、②文明の基盤となる都市・地域施設の構築、③新資源・エネルギー創出と資源循環システム、④人間の健康・安全・衛生と生活環境改善及び環境リスク軽減、⑤地球環境構造と保全、⑥生活基盤の防災・安全・信頼性、⑦風土・文化を考慮した美しく快適な都市や国土の創出、⑧交通・運輸・通信システム、⑨総合計画・管理・情報処理・人工知能、⑩新材料応用・新技術開発などがあります。

これらの広い領域にわたる総合的な理解なくして、地球空間の健全な開発と保全はありえません。そこで地球工学科では、まず基礎的な共通科目を学習した後、それぞれが興味の深い分野へとコースを選択し、志望に応じた多様な選択が行えるようカリキュラムを用意しています。これによって地球工学科に関連する科学技術分野を総合的に理解し得る基礎学力を養うとともに、それぞれの興味ある特定テーマを深く学習することを可能にし、広範囲の分野を取り扱うことの出来る多様な研究者・技術者を生み出すことができます。具体的には、1, 2回生において数学、物理、化学、生物、地球科学、語学及び人文社会等の広範な基礎科目の他に、地球工学総論、基礎環境工学Ⅰ、社会基盤デザイン及び資源エネルギー論などを学習し、基礎学力を養います。3回生では土木工学コース、資源工学コース及び環境工学コースのいずれかに進み、各自の志望に応じた科目を自由に選択学習します。さらに、4回生で選択科目に加えて特定のテーマについて特別研究を行った後、大多数が大学院修士課程に進学して専門的な能力を高めることになります。

また、国際的技術者の養成を目的とし、多様な国籍の学生が共に学ぶために、全ての授業を英語で受講できる国際コースを設けています。国際コースでは、拡大する都市と周辺地域の地球環境・エネルギー問題に配慮した社会基盤の整備とマネジメントに関して将来国際的に活躍できる人材の育成を目的としたカリキュラムを提供しています。外国人留学生に対しては、一般入試とは別途の特別入試が行われますが、一般入試で受験された方も合格後、本コースを選択することが可能です。合格発表後に行われる分属説明会、面接で英語能力及び本人の適性を判断して、国際コースへの配属が決定されます。

## ◎建築学科

### (1) 建築学科が望む学生像

人間生活に密接に係わる建築は、多様な技術を総合した創造的な努力によってつくりだされます。このため、自然科学だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生を歓迎し、その才能を伸ばす教育をおこないます。卒業後は建築家、建築技術者・研究者、建築行政担当者、各種開発事業にたずさわるプランナーなど、多様な分野での活躍を期待しています。

### (2) 建築学科の紹介

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、複雑な技術の総合の上に行われる創造的な努力によってつくりだされます。他の工学分野と同様に、人間生活に必要なものを生産する技術ではありますが、つくりだされるもの―すなわち建築―は他と比較にならないほど人間生活のあらゆる面に密接かつ深く関わっており、最もヒューマンな技術といえます。このような建築の特色から、教科課程も自然科学、人文科学、社会科学の広い分野にまたがっており、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び技術者、行政的な指導・監督に当たる建築行政担当者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では、「単に自然科学の面に才能をもつ学生だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生をもひとしく歓迎します。」

建築学科の教科課程・研究は対象領域や研究手法の観点から、計画系、構造系、環境系及びこれらの系と横断的に関係する人間生活環境や建築保全再生を扱う系に大別されます。

計画系では、豊かな人間生活の基礎となる住宅から種々の建築物及びそれらの集合体である地域・都市空間までを対象とし、空間の形成原理を解明し、空間構成計画、設計、都市計画、建築生産などの方法や、美的観点からも優れた建築物を設計する方法について教育研究を行っています。これにより、歴史的考究に基づく洞察力、現状認識のための調査分析能力、空間を構成するための造形能力などが養われます。

構造系では、建築物を地震や台風などの自然の力から守り、その建物としての寿命を全うするための構造工学・構造技術を教育研究しています。構造技術の発達は従来経験しなかった超高層建築や全天候野球場などの大規模構造の建設を可能にしてきました。さらに、合理的な設計理論、構造法、施工法の展開が望まれていますので、入学者は自然科学を基礎とした広範な能力を発揮することができます。

環境系では、熱・空気・光・音などの物理的環境要素と人間への生理・心理的影響を総合的に評価した環境計画、それを安全で最適に実現する設備計画について教育・研究しています。

人間生活環境や建築保全再生を扱う系では、前記3つの系と協力して生活環境システムを最適に設計する方法や技術を教育し、さらに、IT技術や保全再生技術などを駆使して新しい時代の建築設計及びその人間生活との関連性について教育・研究を行います。

建築家・建築技術者となるには、これらの諸領域について技術とその基礎となる原理を深く修得していくことが望まれるため、比較的基礎的な科目から次第に専門分野に至るように、また、各自の特性を活かした選択が可能のように履修課程が構成されています。さらに高度に専門的な学術知識を修得し研究能力を養うために、建築学科では大多数の学生が大学院修士課程に進学します。

## ◎物理工学科

### (1) 物理工学科が望む学生像

次世代の画期的な機械システム、新材料、エネルギーシステムを開発すること、宇宙空間へ活動の場を拡げていくことに強い関心を持ち、これらの課題の実現に向け、物理学を基礎とした工学を学ぶ意欲を持つ人材を求めます。新しい技術の創造のために、基礎的な学問を十分に修得し、それぞれの専門分野で指導的な技術者・研究者として活躍することを目指す学生を望みます。

### (2) 物理工学科の紹介

科学の世紀と呼ばれた20世紀から新しい世紀を迎え、これまでの科学・技術を更に発展させ、同時に地球環境・資源・エネルギーなどについての困難な課題を克服して人びとに明るい未来をもたらすために、科学・技術に寄せられた期待は大きなものがあります。物理工学科では、次世代の科学・技術に対するこのような期待に応えることのできる人材を育成することを目指して、工学の広い分野とその科学的基礎について教育を行います。

この物理工学科の教育は大学院の組織によって支えられています。関連する大学院専攻は、工学研究科の機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、航空宇宙工学専攻、原子核工学専攻、材料工学専攻、及びエネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻です。これらの専攻は、学内のエネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所、及び工学研究科附属量子理工学教育研究センターなどと協力して、物理工学に関連するそれぞれの分野で、基礎から応用にいたる最先端の研究と、それに基づく大学院での教育を行っています。

大学における教育は、それによって学生が専門知識を得るばかりでなく、より広く、人間、社会、歴史を深く理解し、創造的な思考方法を身につけることをも目的とします。物理工学科に入学した学生は、高度一般教育として、広い範囲にわたる人文・社会科学系科目、外国語科目などを学び、同時に数学、物理学などの基礎科目を学びます。1回生における専門科目としては、「物理工学総論」が用意されています。ここでは「物理工学」の全体像と個別の学科目の位置づけがなされます。2回生以降では、一般教育科目、基礎科目の学修を進めるとともに、基礎的な専門科目として、固体、流体の力学や物性、熱力学、電磁気学、原子物理学の初歩を学びます。学生は機械システム学、材料科学、エネルギー応用工学、原子核工学、宇宙基礎工学の5つのコースに分かれ、将来の専攻分野に応じた教育を受けます。

機械システム学コースでは、材料、熱、流体の力学や物性、その基礎となる量子・統計物理、並びに機械システムの解析と設計・製造・制御について、材料科学コースでは、材料の物性と機能、材料設計、更に材料プロセッシングについて、エネルギー応用工学コースでは、種々のエネルギーの変換・利用技術、ミクロな立場からの物質の性質・変換・創製などについて、原子核工学コースでは、ミクロな世界の物理学をもとに核エネルギー・量子ビームなどについて、また、宇宙基礎工学コースでは航空宇宙工学に関連する基礎学問分野について、それぞれ系統的な基礎教育を行い、工学のあらゆる分野で活躍できる人材を育成すること

を目指します。いずれのコースにおいても、学部卒業のために必要な特別研究は、上記の大学院を構成する専攻の講座の研究室において行います。

卒業後は、多くの学生が大学院に進学します。上記大学院の修士課程学生の定員は物理工学科の学生定員の約8割です。大学院の各専攻は上記の各コースと一対一に対応するのではなく、学生はいずれの専攻にも進学できます。

物理工学科卒業生と上記の大学院専攻修了者には、物理工学のあらゆる関連分野で指導的な研究者・技術者として活躍する道が開かれています。社会生活における工学の役割は加速的に重要となるとともに、人類の将来に対して大きな責任を持ちつつあり、したがって工学技術者、研究者は専門領域における高度な知識と能力を持つだけでなく、幅広い素養ならびに人類社会に対する高い責任感と倫理感を持つことが望まれます。先に述べたように、物理工学科では、物理工学関連分野においてこのような能力を持つ技術者、研究者を育成するために、様々な教育プログラムを用意しています。したがって、そのような能力を持つ技術者、研究者になりたいという強い意欲と、提供される教育プログラムを理解し自分のものとしてゆくの十分な資質を持っていることを、入学してくる学生諸君に求めます。

## ◎電気電子工学科

### (1) 電気電子工学科が望む学生像

自然現象や科学技術、その人間生活との関わりなどに対して広い関心と旺盛な探究心をもつとともに、電気電子工学関連の学術分野へ強い興味を有し、専門教育を受けるのに十分な基礎学力と論理的思考力を備えた創造性豊かな入学者を求めています。

### (2) 電気電子工学科の紹介

電気・電子工学は現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術となっています。例えば、大規模集積回路（超LSI）や光・半導体デバイスを用いた各種の電子・情報・通信システム、ホームエレクトロニクス機器、ロボット・自動車・通信衛星・医療福祉機器等に搭載されている人工知能や制御システムなどはその代表としてあげられます。また、現代社会の主要なエネルギー源である電力の高効率で安定な供給に関する技術とともに、あらゆる電気・電子応用機器の高効率化や人間社会・地球環境との調和のための技術がますます重要になってきています。

電気電子工学科では、(1) 半導体や超伝導体などの電子材料に関する基礎科学や、ナノテクを応用した新しい光・電子デバイスの創製や集積技術、(2) それらを応用した計測・制御や情報・通信・メディア・ネットワークに関するハードウェアとソフトウェアの技術、(3) 電気エネルギーの利用や医用工学にかかわるシステムの理論と技術、という幅広い学術分野にわたって、基礎から応用までの総合的な教育を行っています。実際には、工学研究科の電気工学専攻・電子工学専攻、情報学研究科の通信情報システム専攻ほかの3専攻、エネルギー科学研究科のいくつかの専攻、ならびに関連する研究所やセンターなどに所属する教員が、相互に協力しながらそれぞれの専門に応じて教育を担当しています。

科学技術としての電気電子工学はきわめて広範にかつ学際的に発展し続けており、研究者や技術者としては広い領域にわたる総合的な知識や理解とともに、高度な専門性や独創性も求められています。そこで、電気電子工学科では、まず基礎的な共通科目を学習した後、学生個々人がその志望に応じた多様な選択が行えるようにカリキュラムが作られています。これによって、電気電子工学に関連する科学技術分野を総合的に理解しうる基礎学力を養うとともに、興味のあるテーマについて深く学習することを可能とし、広い視野と創造的な専門能力を兼ね備えた人材を生み出すことを意図しています。

具体的には、1, 2回生の時に、数学、物理学などの全学共通の基礎科目のほかに、電気電子回路、電磁気学、情報通信や計算機工学の基礎、プログラミング技術、物性物理・電子材料・デバイスの基礎などを学習し、また初歩的な電気電子工学実験を行って基礎学力を養います。3回生では応用的な要素を含む実習・演習に取り組むとともに、各自の志望も考慮しながら、より高度な専門科目を学習します。4回生では選択科目に加えて特別研究を行い、専門的・総合的な能力を高めます。さらに、全学年を通して外国語や人文・社会科学等の教養科目を履修し、知識と思考の幅を広げます。

卒業後は大多数の学生が大学院に進学しますが、工学研究科、情報学研究科、エネルギー科学研究科のいずれにも進学できます。また、電気電子工学科の卒業生と大学院の修了者に対する社会のニーズはきわめて大きく、エネルギー・情報化社会を支えるあらゆる分野で、指導的な研究者・技術者として活躍することが期待されています。

## ◎情報学科

### (1) 情報学科が望む学生像

新たな学術領域である情報学を学ぶことによりグローバル化した高度情報社会を創造的に発展させること、そこで起こる幅広い問題を情報科学と数理的思考により解決することに強い関心を持つ人を求めます。数学、物理学をはじめとする理科学科目に興味を持つことはもちろん、情報学が関係する人文・社会科学を含めた諸学問を積極的に学ぶ意欲を持つ人を求めます。

### (2) 情報学科の紹介

現在の高度情報化社会を支える様々なシステムは、大規模かつ複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとることが普通になっています。このような情勢に対処するために、現代科学技術の基盤をなしている“情報”とは何かを究明し、その役割を明らかにする必要があります。また、対象となるシステム全体を横断的にとらえ、問題解決のための手法を探究する“数理的思考”が不可欠なものとなっています。

そこで、情報学科では、グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化に対応し得る幅広い知識をもった人材の育成を目指した総合的な教育と研究を行っています。特に、情報学の理論と実践とを有機的に結合し、数学と物理学を基礎として未知の問題のもつ数理的構造を解明し実際問題に応用できる能力、先端的な技術を用いた高度情報システムを設計・活用できる能力を養うことを目標に据えています。

そのため、本学科では、工学部の基礎学理の教育を十分に理解できる能力を備えることはもちろん、既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかり物事を確かめ理解する力を備え、新しい世界を切り拓く意欲に満ちた創造性に富む人を求めています。

そして、そのようなバイタリティーをもつ人材が、情報学に関する幅広く深い教養と総合的な判断力を身に付けることができるように、基礎から応用に至るカリキュラム体系を編成し、大学院情報学研究科（知能情報学専攻、社会情報学専攻、複雑系科学専攻、数理工学専攻、システム科学専攻、通信情報システム専攻）の教員が教育・研究を担当しています。なお、計算機科学および数理工学はその性格上、すべての学問領域とつながりを持つものですから、諸分野についての広い視野の育成を重視した講義・実験・演習・セミナーなどを提供しています。また、本学科の学生は、原則として1回生修了時点で、数理工学コース（定員40名）と計算機科学コース（定員50名）に分かれ、専門教育を受けることになります。

数理工学コースでは、数理科学の根幹としての数学と物理学、システム工学の基本的分野である制御理論、数理的手法の応用をはかるオペレーションズリサーチなどを中心に、システム理論、最適化理論、離散数学などの諸分野の話題も加えて修得します。もちろん、これらの成果を具体的に適用するために必要となる計算機・情報・通信の授業科目も含まれています。数理工学は、工学における基礎と柔軟な発想を重視しつつ、総合的工学としての役割を担う学問ですから、その目的を達成するのに必要な学力を涵養することを目指しています。

計算機科学コースでは、情報とは何かを究明することを目標に、その処理・伝達・蓄積に関し教育・研究を行います。すなわち、情報と通信の理論、計算の理論、論理回路設計、計算アルゴリズムの設計と解析、コンピュータハードウェア・ソフトウェアの構成原理と各種技法、コンピュータによる言語・音声・画像の情報処理、人工知能・知識工学、コンピュータネットワーク、情報システムとその構築法、メディア処理と各種応用など広範囲にわたる先端技術について学修させ、情報化社会の中核となる技術者・研究者を養成します。

## ◎工業化学科

### (1) 工業化学科が望む学生像

化学および化学に関連する工学のすばらしさを理解し、学習する志と意欲をもち、既成概念にとらわれずに物事を論理的に考え、さらに自ら問題を解決しようとする人を求めます。したがって、高等学校での学習内容をよく理解して、工業化学科での専門教育を受けるのに十分な基礎学力と能力を有していることが望まれます。

### (2) 工業化学科の紹介

社会の発展に伴い、産業の基盤や先端科学を支える多種多様な新しい物質や材料の開発への要請が強くなっています。また、人類が将来にわたって豊かな生活を送るためには、地球環境、資源、エネルギーなどの問題を解決しなければなりません。これには、単に物質を作る技術から、それを構成する分子の生い立ちや性質を調べ、それに基づいて物質の機能を探ることが必要です。このように、新しい化学への期待が極めて

大きくなっています。また、人類がおかれている環境を考慮したうえで、いかに有用な性質・機能を持った物質や材料を生産するかという事も重要な課題です。

これらは、互いに有機的に関連しており、狭い専門分野の知識、技術のみでは対処できません。このような課題を解決できる人材を養成するために、学部では化学の基礎理論のみならず物理学、生物学などの境界領域にある化学及びそれと関連する工学の基礎知識を広い範囲で修得させることを目指しています。教育・研究は大学院（材料化学専攻、物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、高分子化学専攻、合成・生物化学専攻、化学工学専攻）の教員が担当しています。また、学内の化学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所、エネルギー科学研究科、地球環境学堂、福井謙一記念研究センター、物質－細胞統合システム拠点などとも連携しています。

工業化学科では、上記の目的を達成するため、十分な基礎学力を有し、物事を論理的に考察でき、さらに自ら問題を考えて解決する能力をもつ、意欲に満ちた学生を求めています。入学した学生には、化学に関連した広い分野にわたる基礎学力の養成を重視した授業科目を用意しており、工業化学科の全教員が協力して教育に当たっています。第1学年では化学・物理学・数学等に関する基礎的な能力を養うとともに、語学や人文・社会系の科目を履修し京都大学の学生として必要な基礎的素養を身につけます。なお基礎物理化学と基礎有機化学については工業化学科の教員が教育に当たります。第2学年から工業化学科としての専門課程が始まり、物理化学・有機化学・無機化学・化学プロセス工学等について、工業化学科の教員による基礎的かつ高レベルの教育を受けます。

1年半の共通のカリキュラムに続いて、第2年次の後期からおよそ2:3:1の定員比率で創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに分かれ、将来の専門分野に応じた教育を受けます。創成化学コースでは、物質の合成、構造、機能、性質を支配する基礎原理を学び、化学的な探求手法を修得します。これらを通して将来、人間社会に貢献する新しい機能や性質をもつ材料創成のための化学を専門分野にすることを目指します。工業基礎化学コースでは物質の反応や化学的性質を支配する基礎原理と実験手法を習得することによって、将来、分子の概念に基づいた反応・物性の理解、新規化合物の合成、エネルギー関連化学、生物化学など多様な化学の専門分野に展開することを目指します。化学プロセス工学コースでは、化学の基礎科目に加えて、物理、数学、コンピューターサイエンスなどの工学基礎を修得し、将来は、分子レベルから、化学プロセス、さらには地球環境にいたるまでのあらゆるシステムにおけるエネルギーと物質の変換・移動過程を定量的に取り扱う工学の分野を専門とすることを目指しています。なお、教育効果を高めるため、すべてのコースにわたって共通のカリキュラムも準備されていて、幅広い専門知識を修得できるようになっています。第4年次で学生は研究室に所属して専門分野の卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を修得するとともに基礎的訓練を受けます。

卒業後は、大多数が大学院へ進学して、さらに専門的能力を高めていきます。大学院の専攻は上記の学部コースと直結するものではなく、いずれの専攻も受験することができるようになっています。工業化学科の卒業生と大学院の修了者は、化学工業はもとより、電気、電子、情報、食品、医薬、機械など、ほとんどあらゆる分野で必要とされており、社会の期待には極めて大きいものがあります。

## ◇農 学 部

農学は、生命・食料・環境という私たちに最も身近な問題を取り扱います。生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っており、その総合的な視点は、現代の人類が抱える、様々な要素が複雑に絡み合った課題に立ち向かっていく上できわめて重要です。

農学部は、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、世代を超えた生命の持続、安全で高品質な食料の確保、環境劣化の抑制と劣化した環境の修復など、人類が直面している困難な課題の解決に取り組み、本学が目指す地球社会の調和ある共存に貢献することを教育研究の目的としています。このような目的の下、本学部は、農学及びそれに関連する学識と高い倫理性を身につけ、かつ、以下のような能力を備えた社会人を養成します。

- (1) 人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想できる。
- (2) 農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与できる。
- (3) 生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究を理解できる。

この目的を実現するため、学部には、資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科、食品生物科学科の6学科が置かれ、それぞれの学科が、独自の理念と教育方針に沿ったきめ細やかな教育を行っています。低学年では各学科の基礎科目に加えて、農学全般の社会的意義や役割を学びます。高学年では高度な学科専門科目を学び、豊富な実験・実習を通じて知識の理解が深められます。また学科間のカリキュラムネットワークも配慮され、幅広い関連知識の修得を可能にしています。

卒業後の進路としては、8割程度が大学院に進学しますが、就職者は官庁、国公立の試験研究機関、また、企業では化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業あるいは機械メーカー、建設業、IT関連業、商社・金融・保険等広い分野に進出しています。

### ◎資源生物科学科

#### (1) 資源生物科学科が望む学生像

「農業、畜産業および水産業が抱える諸問題や生物学的諸現象に広く関心を持ち、勉学意欲に富み、問題に対して幅広い視点から論理的に解決案を見出ししていく能力を有する人」を求めます。したがって、英語などの基礎科目について十分な素養を備えているとともに、とりわけ生物学をはじめとする理科の科目に関して十分な学力を有していることが望まれます。

#### (2) 資源生物科学科の紹介

人類は、陸地や海洋に生息する植物や動物、微生物など多様な生物を貴重な資源として利用し、また長い年月をかけてそれらを改良し育ててきました。資源生物科学科は、このような食料や生活資材となる生物の生命のしくみを明らかにし、その潜在能力を引き出して安定生産を図り、同時にそれらを有効に利用していくための基礎知識や応用技術について、広い視野に立って教育・研究を行っています。

これからの農業にとっては、安全な食料を持続的に供給するため、それぞれの環境に調和した生産技術や防御技術を開発するとともに、不良環境・病害虫などに抵抗力のある作物や消費者にも利益のある新しい農作物を作り出し、利用していくことがますます重要な課題となっています。このことは陸上の植物に限ったことではなく、家畜や資源動物、海洋の魚介類、藻類、微生物などについてもいえることであり、これらの生物の生理生態的特徴や遺伝のメカニズムを明らかにすることがより大切です。また、これらの分野での研究成果は、絶滅が危惧される野生生物の保護や医学・健康科学分野への貢献も期待されています。

このように本学科は、多様な研究を行っている31の研究分野から成る農学部の基幹学科であり、生物や農業、環境に幅広い興味と深い関心を持っている学生諸君の要望に応えるべく、基礎から応用にわたり体系的に学べるようきめの細かいカリキュラムを用意しています。

### ◎応用生命科学科

#### (1) 応用生命科学科が望む学生像

生命科学に強い関心を持ち、生命現象や生物の機能を化学的なアプローチによって解明・活用することに興味がある人、「健康」に関心を持ち食料生産と環境保全について興味がある人を求めます。多くの分野にまたがる領域にも飛び込んでいける人が望まれます。



## (2) 応用生命科学科の紹介

21世紀は生物産業の時代といわれ、環境、食糧、エネルギー、保健福祉を軸に発展すると考えられています。その中心的技術は、生物の機能をより高度に活用する手段であるバイオテクノロジーです。

本学科では農業生産、発酵・食品・化学工業、環境保全などの現場から生じる様々な問題を生命現象の原理に基づいて解明し、その成果を新しいバイオテクノロジーとして展開できるよう、広範囲の学問領域について基礎・専門教育を行います。

教育では、4年一貫の教育カリキュラムを遂行しています。1・2年次には、各人は本学科で学ぶべき目標を設定できるよう、応用生命科学科全般の学問領域を平易に解説する入門的科目とともに、共通基礎として物理化学、有機化学、生化学を受講します。3・4年次では、動物、植物、微生物を対象とした基礎から応用にわたる広い範囲の学問分野を体系的に受講し、それぞれの理論を体験的に修得できるよう周到に準備された実験・実習を受けます。さらに4年次では、各人は各研究室に所属し、新しい研究課題への取り組みをとおりして、創造的研究の遂行方法と考え方を学びます。

これらのカリキュラムをとおりして、社会の要請に応え、活躍できる自立したバイオテクノロジーの研究者・技術者を養成しています。このような目標を定めた教育を受け止めることのできる明確で強い動機と高い能力を有する人材を求めています。

## ◎地域環境工学科

### (1) 地域環境工学科が望む学生像

農業・農村問題や環境問題、人類への食料供給問題に強い関心を持ち、これらの問題解決に向けた物理学、数学を基礎とした工学的・技術的な方法論に関し勉学を志す人材を求めます。ただし、農業生産と密接な関係があることから、生物学や生命科学などにも強い関心を持つ学生が望まれます。

### (2) 地域環境工学科の紹介

「地域」とは「農業・農村地域」を指します。農業・農村が持続的に発展するためには、自然環境との調和に配慮しながら、地域における重要な環境基盤である土地や水の生産環境、農村地域における生活環境を適切に保全・整備することが基本的に重要なこととなります。また、「地域は地球の細胞」であり、地域を健全な状態に整え維持することが、地球環境の保全にとっても重要です。このような基盤が整えられてはじめて環境と調和した食料生産活動やさまざまな社会活動が可能となります。さらに持続的食料生産を行うためには、エネルギーの変換・利用、最小の入力で最大の効率を得る植物工場や精密農業、そのための自動化および生物センシング等の基礎を確立することが必須です。こういったことを具体化するためには、自然科学から社会科学に及ぶさまざまな分野を包摂する学際的な基礎科学の上に、応用科学である工学や技術学を展開することがきわめて重要となります。

本学科では、基礎知識の教授とともに、演習と実習を通して、数理的、工学的発想に基づいた工学、技術学としての地域環境工学の教育を行います。そして、地域や地球の環境と調和のとれた食料生産基盤や生活環境の保全・整備を目的として農業・農村社会の基盤形成に寄与する人材の育成を図っています。

なお、このような目的のためには全地球的な活動が求められます。そこで、本学科では国内はもとより国際的にも活躍できる技術者や研究者の養成にも力を注いでいます。

## ◎食料・環境経済学科

### (1) 食料・環境経済学科が望む学生像

食料、環境、農林水産業等において生ずる様々な社会・経済問題に対して強い関心を持ち、幅広い観点から自身の力で論理的・実証的に問題の解決に向かって努力する人材を求めます。理科系科目に興味を持ちつつ、経済学を基本としながらも、経営学、社会学、歴史学など人文・社会科学を積極的に勉学したい学生を望みます。

### (2) 食料・環境経済学科の紹介

本学科は、今人類が直面している難問のなかでも、私たちの生活に最も関連深い食料と環境をめぐる諸問題に対して、経済学・経営学をはじめ社会学・歴史学など人文・社会科学を総動員し、問題の性格とそれらが社会・経済システムに占める位置を明らかにするとともに、解決のための諸条件を明らかにすることを課

題にしています。他学科のほとんどが自然科学的な研究手法をとるなかで、唯一本学科のみが人文・社会科学的研究手法を用いています。

農林水産業は、主として非生物材料と人工的な施設に依拠する無機的な工業技術とは異なり、各地域の自然生態系と社会のあり方を反映し、地域的個性のうえに環境保全的で持続的な展開をめざさねばなりません。食料問題も環境問題も人間の創り出した社会・経済システムの産物であり、本学科はその解決を課題とすると同時に、他の学科で行われる自然科学的・技術学的諸研究の成果を積極的に吸収し、それらが現実社会に適切に受容されるための諸条件を探ることや、これらを農学論として総括し、21世紀にふさわしい新しい農学のパラダイムを発信していくことも目標にしています。

以上のような共通の目標を基盤にして、本学科は具体的な課題と手法で区別される8つの分野（研究室）で構成されています。大別すれば、主に個別経営主体による経営・マーケティングの領域を対象とする農業組織経営学分野と経営情報会計学分野、主に食料・環境・資源に関連した政策の領域を対象とする地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論の諸分野、主に歴史・哲学領域を対象とする比較農史学及び農学原論の諸分野です。

本学科は、講義とともに特に少人数の演習による教育及び社会・経済的な問題の実態に直接ふれる調査・見学・実習を重視しています。また、これに関連して調査分析手法や情報処理の教育をも取り入れています。さらに、3年次の後期から分野の演習に参加し、1年半をかけてじっくりと卒業論文作成にとり組みます。

## ◎森林科学科

### (1) 森林科学科が望む学生像

人類の健康で快適な生活には、食料とともに環境の良い生活空間が必須です。森林科学科では身近な生活空間から地球規模の環境問題までを視野に入れて、森林の保全と育成、木材などの資源の有効利用、森林・農村・都市の良好な関係などの課題に積極的に取り組む人を望みます。

### (2) 森林科学科の紹介

森林は、地球の陸地面積の27%を占め、人類の生活を様々な面で支え、関わってきました。貴重な森林資源を将来にわたって持続的に利用しながら、地域の自然災害発生を防止し地球環境の劣化を招かないための方策を考えることは21世紀の世界共通の課題です。森林科学科は森林、樹木をキーワードに、それらに関わるほとんど全ての項目を広くカバーした研究、教育を行っています。大きくは、次のように分類されます。

1. 森林とそこに生息する動植物・きのこ等を含む生態系とその機能を、生物多様性、土壌資源と物質循環の変動を含めて解明する。
2. 森林から生産されるバイオマス資源をマクロからナノ・分子レベルに至る多様なスケールで解析し、その新しい利用法を生物学、物理学、化学的手法により開発する。住宅の設計、住宅部材の製造・管理なども含まれます。
3. 庭園や公園から、都市や里山、国土など様々なスケールの緑地のデザインと計画を行う。また、森林と人間の係わり合いを経済、社会だけでなく心や文化の面からも検討し、望ましい関係を探る。エコツーリズム、森林経営、山村問題などが含まれます。
4. 森林の水・物質循環に基づく環境形成作用や山地斜面、山地河川での土砂の移動、樹木や森林が持つ土砂災害防止機能を解明する。

分野によって、フィールド調査、室内での実験、電子顕微鏡での観察、化学実験、物理実験、コンピューター・シミュレーション、衛星データを利用したリモートセンシング等の中から適切な手法を選んで問題の解明を行います。フィールド調査は、北海道から沖縄に至る国内はもとより、熱帯雨林、亜寒帯の森林から砂漠にまで広がっています。

## ◎食品生物科学科

### (1) 食品生物科学科が望む学生像

食に関わる幅広い問題に関心を持つとともに、生物学、生化学、有機化学、物理化学など、生命科学に関わる基礎学問を学ぶ意欲を持ち、これらの学問的背景のもとに、食品生物科学の学理を修得し、将来、食品

科学および健康科学に関わる創造的な研究ならびに開発・生産活動を目指す、積極的な人を求めています。

## **(2) 食品生物科学科の紹介**

本学科は、多様化の一途を辿る食品に関する基礎的な知識・技術・考え方を教授し、次代の先端的な食品科学に対応できる幅広い素養を有する人材の育成を目的に設立されました。食品の機能的・構造的な本質を追究することによる生物・生命の理解、人間に適合したより優れた食品の創出、更には食品の効率的な生産に寄与する技術の開発を主たる基本理念としています。

食品は、直截には農水産物などの一次生産物を人間が摂取できる形で提供したのですが、現在では、それらを分子レベルで改変し、生理機能性、嗜好性、加工性、食感などを強化した新しい形態の食品の創生も積極的に研究されています。従って、このような理念の達成には、食品に関わる広範な問題を根源から理解し、食品に関する新たな学術体系を構築して行かなければなりません。

本学科では、食料、生命、健康、環境を基軸にした広範囲の学問領域について基礎・専門教育を行い、このような食品にまつわる諸問題の解決に力を注いでいます。

## 予 告

### 平成30年度 一般入試選抜方法等の変更について

#### ◇薬学部の変更について（予告）

薬学部では、平成30年度入試から一般入試及び特色入試の募集区分の変更等について以下のとおり予定しています。  
※ただし、この内容は予定であり、変更する場合があります。

##### 1. 概要

薬学部では、一般入試において薬科学科（修業年限4年）と薬学科（修業年限6年）に分ける学科単位での募集から、薬科学科と薬学科を合わせた学部単位での募集に変更します。一般入試で入学した学生は、3回生後期に本人の志望や学業成績等に基づいて所属学科を決定します。

また、現在、薬科学科のみで実施している特色入試を、平成30年度入試より薬学科でも実施する予定です。特色入試における薬学科の入学選抜方法については、別途発表します。

なお、薬学部全体の募集人員は80人で変更はありませんが、学科ごとの定員については変更する予定です。詳細が決まり次第改めて発表します。

##### 2. 募集区分の変更について

###### 【平成29年度入試（現行）】

募集人員80人（特色入試における募集人員3人を含む）

- ・一般入試（第一段階選抜各学科 約3.5倍）

薬科学科：47人 薬学科：30人

- ・特色入試

薬科学科：3人



###### 【平成30年度入試（予定）】

募集人員80人（特色入試における募集人員6人を含む）

- ・一般入試（第一段階選抜 約3.5倍）

薬科学科・薬学科（学部一括）：74人（予定）

- ・特色入試

薬科学科：3人 薬学科：3人（予定）

# 京都大学構内図

(吉田キャンパス)

## ◎ 各学部教務掛等所在地

- ① 農学部
- ② 理学部
- ③ 文学部
- ④ 教育学部
- ⑤ 法学部
- ⑥ 経済学部
- ⑦ 工学部
- ⑧ 総合人間学部
- ⑨ 医学部医学科
- ⑩ 薬学部
- ⑪ 医学部人間健康科学科

◆教育推進・学生支援部入試企画課

至神宮丸太町駅

至出町柳駅

今出川通

百万遍

北部構内

京大農学部前

本部構内

京大正門前

医学部構内

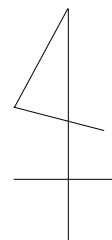
吉田南構内

近衛通

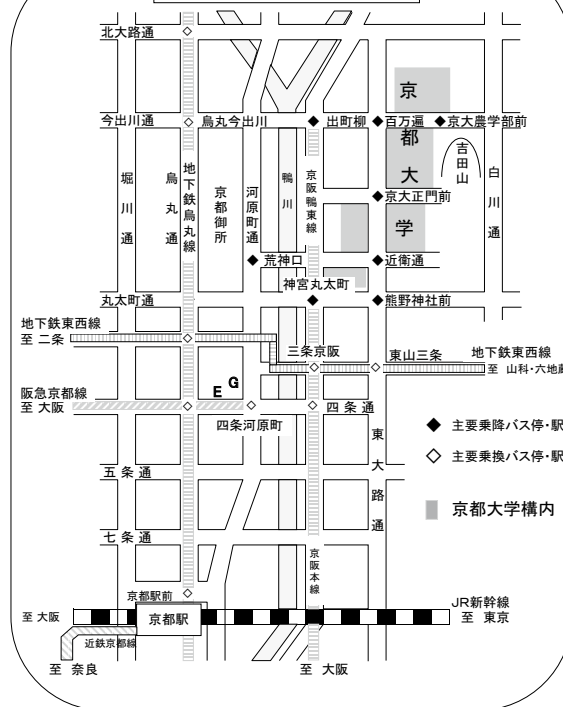
薬学部構内

病院構内

東大路通



## 京都市略図



◇表記の主要乗換バス停に対応する鉄道駅は下記を参照してください。

## 市バス案内等

熊野神社前

| 主要鉄道駅               | 乗車バス停                                             | 市バス系統 | 行 先                         | 下 車 バ ス 停                                            |
|---------------------|---------------------------------------------------|-------|-----------------------------|------------------------------------------------------|
| 京 都 駅<br>(JR・近鉄)    | 京都駅前D2                                            | 206系統 | 「東山通 北大路バスターミナル」 ゆき         | 「京大正門前」又は「百万遍」<br>医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」  |
|                     | 京都駅前A2                                            | 17系統  | 「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき          | 「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」                           |
| 阪 急 京 都 線<br>河原町駅   | 四条河原町E                                            | 201系統 | 「祇園・百万遍」 ゆき                 | 「京大正門前」又は「百万遍」<br>医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」  |
|                     |                                                   | 31系統  | 「東山通 高野・岩倉」 ゆき              |                                                      |
|                     | 四条河原町G                                            | 3系統   | 「百万遍 北白川仕伏町(上終町京都造形芸大前)」 ゆき | 「百万遍」 薬は「荒神口」                                        |
|                     |                                                   | 17系統  | 「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき          | 「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」                           |
| 地下鉄烏丸線<br>今出川駅      | 烏丸今出川                                             | 201系統 | 「百万遍・祇園」 ゆき                 | 「百万遍」 又は「京大正門前」<br>医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」 |
|                     |                                                   | 203系統 | 「白川通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき           |                                                      |
| 地下鉄東西線<br>東山駅       | 東 山 三 条                                           | 206系統 | 「高野 北大路バスターミナル」 ゆき          | 「京大正門前」又は「百万遍」<br>医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」  |
|                     |                                                   | 201系統 | 「百万遍・千本今出川」 ゆき              |                                                      |
|                     |                                                   | 31系統  | 「東山通 高野・岩倉」 ゆき              |                                                      |
| 京 阪 鴨 東 線<br>出町柳駅   | 出 町 柳 駅                                           | 201系統 | 「百万遍・祇園」 ゆき                 | 「百万遍」 又は「京大正門前」<br>「百万遍」 理・農は「京大農学部前」                |
|                     |                                                   | 203系統 | 「白川通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき           |                                                      |
|                     |                                                   | 17系統  | 「銀閣寺・錦林車庫」 ゆき               |                                                      |
|                     | 文・教育・法・経済・工は当駅下車, 東へ徒歩約15分 総合人間・理・農は徒歩約20分        |       |                             |                                                      |
| 京 阪 鴨 東 線<br>神宮丸太町駅 | 医(医学科)・薬は当駅下車, 北東へ徒歩約10分 医(人間健康科学科)は当駅下車, 東へ徒歩約5分 |       |                             |                                                      |

※ 京都駅前および四条河原町のバス停にはのりば表記を行っています。

## 【インターネット出願の導入について】

京都大学では平成 29 年度入学者選抜にかかる学生募集より、インターネット出願を導入します。一般入試学生募集要項は、12 月中旬（予定）より京都大学ホームページに掲載する予定です。

## 【大学案内等の請求方法】

大学案内等の各種冊子については、以下の①～④の方法により取り寄せることが出来ます。

### ①大学のホームページから請求する方法

京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）から「テレメール」・「モバっちょ」を利用して大学案内等の資料が請求できます。

ホーム>京大について>広報活動>刊行物・資料請求>「入試関連・入手方法」から各資料請求画面へアクセスできます。総合人間学部案内、工学部案内、農学部案内につきましては、各学部のホームページでも公開しています。

### ②「テレメール」で請求する方法

下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスし、請求を希望する資料請求番号を入力またはプッシュしてください。

| インターネット                                     |                                                                                   | 自動音声応答電話                                                                           |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| パソコン・スマートフォン・携帯電話<br>共通アドレス                 | <a href="http://telemail.jp">http://telemail.jp</a>                               | IP 電話 050-8601-0101<br><br>(24 時間受付)<br><br>※一般電話回線からの通話料金は<br>日本全国 3 分毎に約 12 円です。 |
| バーコード<br>※バーコードからアクセスした場合は<br>資料請求番号の入力は不要。 |  |                                                                                    |

| 資 料 名    | 資料請求番号 | 配付時期  |
|----------|--------|-------|
| 大学案内     | 564602 | 7 月中旬 |
| 総合人間学部案内 | 564622 | 4 月上旬 |

| 資 料 名 | 資料請求番号 | 配付時期  |
|-------|--------|-------|
| 工学部案内 | 544622 | 7 月下旬 |
| 農学部案内 | 564732 | 8 月上旬 |

その後はガイダンスに従って登録してください。

※資料請求から 2～3 日後に資料が届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては 4 日以上かかる場合もあります。5 日以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※資料請求代金と支払手数料が必要です。

※料金は資料到着後、同封されている支払方法に従い、表示料金をお支払いください。コンビニ支払い、ゆうちょ銀行・郵便局での支払い、携帯払い、クレジットカード払いができます。

**②の請求方法についての問い合わせ先：テレメールカスタマーセンター 電話：050-8601-0102 (9:30～18:00)**

### ③「モバっちょ」で請求する方法（大学案内のみ）

携帯電話、スマートフォン、パソコンから下記へアクセスしてください。急ぎの方は宅配便の利用もできます。

<http://djcm-b.jp/kyoto-u3/>

バーコード ※対応する携帯電話で読み取れます。

※資料請求代金と支払手数料が必要です。

※携帯払い、スマホ払い、クレジットカード払い、コンビニ後払いができます。

※携帯電話・スマホの機種、携帯電話会社との契約状況によって、通話料金と一緒に支払いできない場合があります。その場合はコンビニ後払いを選択してください。



**③の請求方法についての問い合わせ先：モバっちょカスタマーセンター 電話：050-3540-5005 (平日 10:00～18:00)**

### ④京都大学においても下記にて配布します。

○インフォメーションセンター（本部構内正門横）：土・日・祝休日を含む 24 時間

○教育推進・学生支援部入試企画課：9:00～17:00（月～金曜日〔祝休日・年末年始は除く〕）

○東京オフィス（新丸の内ビルディング 10 階）：10:00～20:00（月～土曜日〔祝休日・年末年始は除く〕）

